

# 徳山高専だより

Tokuyama College of Technology

2011年度 No.65



徳山工業高等専門学校

# 目次

ホームページTop Newsで綴る徳山高専この1年 ……	1
全国高専体育大会団体優勝クラブ報告	
バドミントン部 ……	7
ハンドボール部 ……	9
テニス部 ……	10
第37回 高専祭『Peeece!!』を終えて ……	12
紹介します! 「高城寮の1年間」 ……	14
留学生だより ……	16
就職・進学状況 / 就職・進学試験体験記	
本 科 ……	20
専攻科 ……	26
卒業生だより ……	29
徳山高専同窓会「高城会」から ……	32
退職者あいさつ ……	37
新任者紹介 ……	40
学生に対する図書館利用に関する アンケートと結果について ……	45
図書館時間外開館補助員の感想 ……	47
編集後記 ……	48

※注 (本文記事中略称)

ME=機械電気工学科 IE=情報電子工学科 CA=土木建築工学科

表紙中央写真: 改修工事中の専門科目棟(東)(2012年2月中旬撮影)

# 徳山高専この1年

※注 学年は開催時

## 専攻科で英語による講演会を開催

2011年1月31日



講演会「ワランゴン大学におけるエンジニアリング・デザイン教育プログラム」が、専攻科2年生と教員を対象に開催されました。ワランゴン大学(オーストラリア)のHadi氏を講師にお招きし、エンジニアリング・デザイン教育プログラムの内容やその評価法についてのお話を英語でいただきました。これは、(独)国立高専機構留学生交流促進センター主催の事業「平成22年度 英語(外国人講師)による専門授業」に本校の応募案が採択されたことにより実施しました。

## 旅立ち！卒業おめでとう

2011年3月16日



小雪の舞う3月16日、本校第二体育館で第33回卒業式・第15回専攻科修了式が厳粛に執り行われました。本科ではマレーシア、モンゴルからの留学生を含む125名が卒業証書を、専攻科では40名が修了証書とJABEE「設計情報工学」プログラム修了証を受け取りました。また、後援会の主催で行われた交歓会では先生方を囲んで名残を惜しんでいました。卒業生、修了生たちは高専生活の多くの思い出とこれからの希望をそれぞれの胸に抱き、自信と誇りを持って旅立ちました。

## 山口県産業技術振興奨励賞(山口県知事特別賞)受賞

2011年3月16日



機械電気工学科藤田重隆教授が、第2回山口県産業技術振興奨励賞の山口県知事特別賞を受賞しました。山口県産業技術振興奨励賞は、優れた技術を基にした事業活動により県内産業振興への貢献が認められる中小企業等を表彰することにより、県内産業振興に資する産学公連携等による優れた技術の研究開発と新事業展開の取組を推進するとともに、併せて、ものづくり技術を尊重する社会的気運を醸成することを目的とした賞です。3月16日に山口県庁で表彰式が行われ、二井山口県知事から表彰状が授与されました。山口県知事賞を受賞した旭興産(株)の「大型ガラス基板エア浮上搬送装置の開発」に、流体力学の立場から技術的な助言を行い本装置の製品化に貢献したと認められ、今回の受賞となりました。

## 輝け、夢に向かって！入学おめでとう

2011年4月6日



春の日差しが満開の桜に降りそそぐ4月6日、第38回入学式及び第17回専攻科入学式が行われました。機械電気工学科40名、情報電子工学科44名、土木建築工学科40名、編入学生6名、モンゴルとケニアからの留学生2名、機械制御工学専攻7名、情報電子工学専攻4名、環境建設工学専攻21名、合計164名の入学が許可されました。新入生の皆さん入学おめでとうございます。夢の実現に向けて一歩踏み出しましょう。

## 新入生合宿研修を山口徳地青少年自然の家で実施

2011年4月11日～12日



今年度入学した1年生を対象に、毎年恒例の新入生合宿研修を山口徳地青少年自然の家で、4月11日から1泊2日で行いました。1日目は、自己紹介、オリエンテーリング及び校歌練習を行いました。オリエンテーリングでは、小雨の中、夢中でポイントをさがして、気がついたら服はびしょ濡れになっていました。夜の校歌練習では、練習成果の発表の際、4・5年生の指導学生がダンスを披露して大変盛り上がりしました(写真)。2日目の野外炊飯では、慣れない包丁さばきで作った焼きそばでしたが、共同作業というスパイスのお陰で大変美味しく出来上がりました。この2日間の研修で、緊張による固さもほぐれ、沢山の友達を作ることが出来ました。

## 中四国地区専攻科生研究交流会に専攻科2年生全員が参加 2011年4月28日～29日



4月28日と29日の2日間、広島商船高専を主幹校として、平成23年度中四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会が広島国際会議場で開催されました。徳山高専専攻科2年生33名が参加し、専攻科でこれまで励んできた特別研究の成果を発表するとともに、他高専専攻科の学生達と交流を深めました。

## 出光興産(株)徳山工場久保田副工場長が専攻科「産業論」で講義 2011年5月13日



出光興産(株)徳山工場副工場長の久保田忠義さんが専攻科「産業論」で講義をされました。世界と日本の石油産業、石油業界の問題点、周南コンビナート、日本の石油化学工業全体の課題等を解説され、講義の最後では、自らの技術者としての経験から、「技術者としての心構え」を専攻科生に話していただきました。

## 情報電子工学科2年生が合宿研修を実施 2011年5月19日～20日



情報電子工学科2年生の学生が、山口県岩国市由宇町にある「ふれあいパーク」で1泊2日の合宿研修を行いました。陶芸(信楽焼き)や野外炊飯等を楽しむことで、クラスメートとの親睦を深めました。天気にも恵まれ、楽しい研修となりました。(写真は、陶芸風景)

## 平原地区合同環境美化作業に参加 徳山高専学生会 2011年5月21日



蒸し暑さが感じられる薄曇りの中、平成23年度の平原地区合同環境美化作業が行われました。平原寿会が主催する本活動は今年で11年目となり、平原寿会の皆さんに加えて、徳山高専学生会から40名と、徳山大学から留学生も含めた200名が参加しました。徳山高専の学生が通学路として利用する道路沿いのゴミ拾い、草引き、草むらに投棄された粗大ごみの撤去を行い、冬の間に積もった溝の枯れ葉を取り除きました。大量発生していた毛虫に戸惑いながらも作業を進め、階段周辺は見違えるようにきれいになりました。汗と埃にまみれましたが、心地よい疲労感と満足感が得られた作業でした。

## 「産業論」で専攻科生がマナー講習を受講 2011年5月27日



専攻科1年生が西京銀行の現役行員による「インターンシップ」マナー講習を受講しました。「インターンシップ」は、県内の企業を中心として、6月から2ヶ月以上の長期に亘り実施され、さまざまな就業体験をすることで、社会が要求し期待する人物像を具体的に把握するなど、将来の地域を支える職業人としての心構えについて学ぶために実施しています。4月から始まった「産業論」では、講師として(株)トクヤマ元徳山事業所長白神誠一氏や、出光興産(株)徳山工場副工場長久保田忠義氏など、地域を代表する企業の経営者をお招きし、地域産業に関して講義していただくとともに、最終回では、本校が連携している西京銀行の現役行員により「インターンシップ」事前教育として、マナー講習を実施していただきました。

## 徳山高専テクノ・アカデミア総会を開催 2011年6月13日



平成23年度徳山高専テクノ・アカデミア総会が、ホテルサンルート徳山で開催されました。総会、基調講演には、テクノ・アカデミア会員企業をはじめ、地元企業の方々など約140名にご参加いただきました。基調講演には、中国経済産業局地域経済部長藤岡幸男氏、(独)国立高等専門学校機構理事五十嵐一男氏、(社)日本機械学会2005年度会長田口裕也氏の3名をお招きし、東日本大震災の被害状況や今後の対応、高専機構の貢献、震災から学ぶ人材育成などのお話をしていただきました。また、講演に引き続き行われた情報交換会では、参加者どうしの交流がはかられました。

## 情報電子工学科5年生が創造演習の作品発表会

2011年6月18日



情報電子工学科5年生の学生が、夢広場（銀座一番街ふれあいパーク「街あい」内）で作品発表会を行いました。マウスに替わる手袋型入力装置「マスターハンド」、関連先項目がすぐに参照できる電子ノート「デジタルのーと。」、コンピュータの動作をみることができる「Tecシミュレータ」の3作品を展示しました。これらは、昨年度「創造演習」の授業の中でアイデアを出しあい、コンピュータ技術を応用して製作したものです。会場では、情報電子工学科の学科説明会も行い、教員が進路相談などに応じました。

## 山口国体テニス競技の出場権を得る

2011年6月25日～26日



国体テニス成年の部の山口県予選会が、宇部市で開催されました。これは、先に行われた全日本山口県予選会でのベスト16の選手がトーナメント方式でベスト4を決め、更に決勝リーグで2名の国体出場選手を決定するもので、土木建築工学科4年の寺本高史君は、決勝リーグで2位となり、国体の出場権を得ました。昨年の千葉国体少年の部にも県代表として出場しており、今回は更にレベルの高い成年の部での出場を目指したものです。山口国体テニス競技成年の部は、周南市の麒麟ビバレッジ庭球場で10月1日～5日に開催され、本校テニス部も役員や補助員として支援をしました。

## 校内見学会開催

2011年7月16日



7月に第1回校内見学会を開催しました。猛暑の中、県内外から中学生、保護者等あわせて約430名の来校者がありました。全体会で本校の概要説明を行った後、キャンパスを自由に探検、各学科の特色を生かした企画及び体験コーナー、クイズラリーや学生食堂体験など内容盛りだくさんで、どの企画も多くの参加者で賑わいました。また、学寮では、寮生会による居室や施設の見学会も行われました。

## 団体5競技が優勝！ 中国地区高専体育大会

2011年7月

7月8日から広島商船高専を主管校として、津山高専、呉高専で開催された第47回中国地区高等専門学校体育大会で、団体5競技（バレーボール部、サッカー部、ハンドボール部、テニス部、バドミントン部）が優勝し、全国大会への切符を手に入れました（写真）。また、個人戦でも、テニス部、バドミントン部、陸上競技部、ソフトテニス部、柔道部、剣道部、水泳部の7競技から多くの選手が全国大会への出場を決めました。



## 平成23年度第1回顧問会議を開催

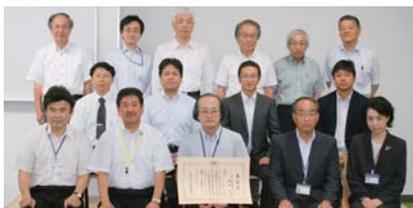
2011年8月8日



平成23年度第1回顧問会議を開催しました。この会議は徳山高専の教育・研究活動等に対して外部の有識者からの検証を受けるために開催されたもので、7名の顧問が出席しました。徳山高専年度計画の概要、活動状況点検結果と今後の課題、英語力向上の取り組み、エンジニアリング・デザイン教育の方法と今後の課題についての説明に対し、顧問からは、活動報告への高い評価や様々な視点から忌憚のない提言があり、活発な意見交換が行われました。

## 国立高等専門学校教員顕彰(理事長賞)受賞

2011年8月



8月23日から開催された全国高専教育フォーラムにおいて、平成22年度国立高等専門学校教員顕彰式が併せて開催され、土木建築工学科佐賀孝徳教授に国立高等専門学校機構理事長賞が授与されました。この賞は国立高等専門学校における教育活動、学生生活指導、地域社会への貢献等において顕著な功績が認められた者を、各校から推薦された教員の中から選考するもので、今回は「こころの成長に主眼をおいた教育実践とその展開」による幅広い学生指導の実績が高く評価されての受賞となりました。写真は、鹿児島で行われた表彰式の様子です。(前列一番左が佐賀教授)

## 周南ロボコン2011「ロボット製作教室」開催

2011年8月27日～28日



8月27日、28日に本校テクノ・リフレッシュ教育センターにおいて、周南ロボコン2011「ロボット製作教室」を開催しました。始めに、これから製作するロボットの実演があり、コンテスト出場を目指す小・中学生は、期待に胸を膨らませていました(写真)。材料の切り出しから全て参加者本人が行うため、慣れない工具の使用も、本校学生の指導を受けながら完成に向けて一生懸命頑張りました。製作教室はこの日のほか、30日に岐山公民館、31日に櫛浜公民館、9月15日、16日には徳山小学校で開催されました。毎年恒例となった市民参加型ロボットコンテストも8回目を迎え、周南市との共催で10月29日に本校体育館で熱戦が繰り広げられました。

## 科学研究費助成事業研修会を開催

2011年9月1日



教職員を対象に、科学研究費助成事業の研修会が本校メディアホールで開催されました。東京農工大学大学院工学府電気電子工学専攻助教田向権氏をお招きし、「若手研究者の外部資金獲得作戦」という演題のもと講演を行っていただきました。ご自身の経験等を踏まえたうえで、科学研究費の獲得方法や高専教育について大変興味深いお話をしていただきました。

## 機械電気工学科5年が連続優勝！平成23年度クラスマッチ開催！！

2011年10月7日



残暑残る10月7日に学生会主催のクラスマッチが本校で開催されました。例年2回行われるクラスマッチですが、今年は国体等の関係で1回限りの開催となり、学生会も企画の段階から気合いが入っていました。新たな競技として、運動会では恒例の玉入れが行われ、教職員チームも思いの外入らない小さなカゴに向かって一生懸命タマを投げ続けましたが、学生の若いパワーに圧倒され予選敗退となりました(写真右)。その他にも、リレー、ソフトボール、サッカーなど7種目が行われ、総合優勝は昨年度の2度のクラスマッチの覇者、機械電気工学科5年生が連続優勝を果たしました。

## 3D-CAD プロダクトデザインコンテストで

### 優秀賞、審査員特別賞

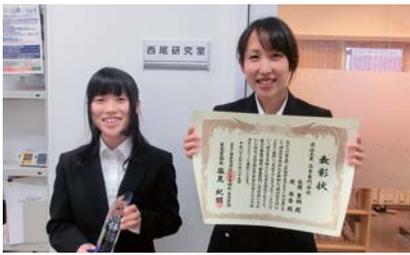
2011年10月

日本工業大学が主催する第3回 3D-CAD プロダクトデザインコンテストで、本校機械電気工学科3年生の礮本佑弥君と同2年生の林敏也君が入賞しました。礮本君は自由デザイン部門「エコロジーに関する“おもしろいもの”」(応募25件)で優秀賞に、林君はテーマ部門「子供が乗る遊具」(応募111件)で審査員特別賞に輝きました。写真は10月16日に日本工業大学で開催された受賞式後の様子です。



## 第2回JPM学生コンテストで特別協賛会員賞を受賞

2011年10月



全国の大学（大学院を含む）・高専に在籍する学生を対象に、(財)日本賃貸住宅管理協会が主催する「第2回JPM学生コンテスト」で、土木建築工学科5年で西尾研究室の長岡里穂さんと原舞香さんが特別協賛会員賞のSUUMO賞を受賞しました（応募数78点）。本コンペティションは「絆と住まい」をテーマに、人と人とのコミュニケーションを深め、地域社会の活性化に資する賃貸住宅像を創造するというものです。このテーマに対して、2人は普段あまり有効に活用されていない各住戸の裏庭を共有し、地域のコミュニティスペースとすることで、住民間のきずなを深めることを提案しています。

## 第37回高専祭『Peece!!』開催

2011年10月29日～30日



10月29日、30日の2日間、学生会主催の最大イベントである高専祭が開催されました。第一体育館に設置された特設ステージ背面には、幅7.2m×高さ3.6mもの巨大なエコキャップアートが飾られ、趣向を凝らした音響・照明と相まってステージ企画に彩りを添えました。1日目の周南ロココンに始まり、メイン企画のアトラクション「BEEEM」、ファッションショーなど、学生の創造力・実践力が見事に結実し、各企画とも多くの人で賑わっていました。ご来場いただいた皆様、ありがとうございました。

## 英語弁論大会で入賞！

2011年11月4日～5日



第27回中国地区高専英語弁論大会（会場：宇部市・ココランド）に土木建築工学科5年波多野さやかさん、情報電子工学科2年吉永佐貴さん、土木建築工学科2年上重望さん、土木建築工学科1年藤川瑠璃さんが出場しました。全員がベストパフォーマンスを披露し、上重さんが暗唱の部で2位入賞、吉永さんが弁論の部で3位入賞というすばらしい結果を残すことができました。応援ありがとうございました。

## 周南まちづくりコンテスト2011で最優秀賞、優秀賞

2011年11月5日



周南地域のまちづくりのアイデアを全国から募集する「周南まちづくりコンテスト」（徳山大学主催）で、昨年度に引き続き本校の学生が入賞をはたしました。高校部門は土木建築工学科3年の島添紗希さんが提案した「ウォーキングとジョギングによるまちづくり」が154作品の中から栄えある最優秀賞に選ばれました。島添さんの提案は、陸上部で毎日走っている自分の実感を通して、既存の施設や道路空間を活用してウォーキングルートを設置し、ウォーキングクラブをつくって参加者を呼び掛け、走る場所の清掃活動や備品の修理を行おうというものです。大学・高専部門では土木建築工学科5年の国澤元樹さんが優秀賞を受賞し、ダブル受賞となりました。両者とも周南市役所のかたからは今すぐにも実行できる良いアイデアと評されました。（写真：表彰式の様子）

## 「衛星設計コンテスト」で日本航空宇宙学会賞、最優秀模型賞

2011年11月12日



全国の大学院、大学、高専、高校を対象に人工衛星の設計や宇宙ミッションのアイデアを競う「第19回衛星設計コンテスト」（宇宙関連8学協会の共同主催）において、本校から参加した専攻科機械制御工学専攻1年大山達也君、機械電気工学科5年有金聡君、廣政拓郎君、森本祐平君のチームが、アイデアの部で大学・大学院生に並んで「日本航空宇宙学会賞」および「最優秀模型賞」の2賞を受賞しました（応募総数33件）。提案タイトルは「月面基地におけるスターリング発電システム」で、将来の月基地での電力供給について月面と地下の温度差を利用した発電システムの概念設計を発表しました。11月12日に行われた東京一橋記念堂での最終審査会では、審査員から実現可能性の高い提案と評され、プレゼン用に製作した模型も高い評価を受けました。

## デザコン2011で優秀賞、審査員特別賞、CADコンで審査員特別賞を受賞 2011年11月12日～13日

高専連合会が主催するデザインコンペティション(デザコン)2011 in 北海道が釧路市で開催され、土木建築工学科の学生が2部門で入賞しました。山本愛さん、江浪夏美さん、大庭彩さん(4年)のチームが「環境デザイン部門」(応募35件)で優秀賞に、中塚萌さん、小林志海君(専攻科1年)、田中幹基君(5年)、澄岡ほのかさん(2年)、小山諒子さん、志賀菜帆さん(1年)のチームが「構造デザイン部門」(応募53件)で審査員特別賞に輝きました。両部門とも2年連続受賞となりました。また、大西由布子さん、松本結花さん(5年)、小林志海君(専攻科1年)、千葉光君(専攻科2年)のチームは、「空間デザイン部門」(応募131件)において、惜しくも受賞こそ逃しましたが見事入選12作品の中に選ばれました。写真は釧路市観光国際交流センターで開催された受賞式後の様子です。



また、13日に同じく釧路市で開催された、3次元デジタル設計造形コンテスト(CADコン)には、機械電気工学科5年の平田翔大君と松田光史君が出場し、審査員特別賞を受賞しました。

## 今日是一日高専生！第2回校内見学会開催

2011年11月19日



第2回校内見学会を11月に開催しました。雨天の中、県内外から中学生、保護者等あわせて約250名の参加者がありました。この日は、朝の入学式から始まり、午前中に一般科目の英語、中国語、数学の体験授業、午後は専門学科体験講座を、各生徒の希望する講座を選んで受講しました。熱心に授業に取り組む中学生の姿が、とても印象的でした。講座終了後は、それぞれの教室で卒業式が行われ、一日体験入学修了証書と記念品のネームプレートが手渡されました。

## テニス部 中国高等学校新人テニス大会 シングルス準優勝・ダブルス3位 2011年11月19日～20日



第5回中国高等学校新人テニス大会が、宇部市の宇部マテ“フレッセラ”テニスコートで行われ、伊藤壮一郎君(機械電気工学科2年)がシングルスで準優勝し、ダブルスでも伊藤君と齋藤颯君(機械電気工学科1年)の組が第3位と活躍しました。シングルス、ダブルスとも9月に行われた山口県体育大会で優勝しての出場で、中国各県の強豪と激戦続きでしたが、よい結果を残しました。来年度の高専総体での活躍が期待されます。

## JICA 青年研修事業で来訪

2011年11月22日



中南米諸国7カ国(アンティグア・バーブーダ、ベリーズ、グレナダ、ジャマイカ、セントクリストファー・ネイビス、セントルシア、セントビンセント)の政府機関や職業訓練校に携わる青年リーダー8名が本校を視察に訪れました。この度は、機械電気工学科及び土木建築工学科の授業や設備を見学しました。この視察は、JICA((独)国際協力機構)事業による世界青年徳山友の会主催の研修として行なわれ、23日の同研修のワークショップに教員及び留学生が参加しました。

## 11年ぶりサッカー一部優勝！クラブ対抗駅伝

2011年12月17日



この冬一番の寒波到来で実施が危ぶまれた12月17日、第29回クラブ対抗駅伝が開催されました。学外参加の東洋鋼鈹チームを含めた29チームが一斉にスタートしタスキをつなぎました。中継の度に1位チームが入り替わるデッドヒートを演じ、目の離せない展開の中、連覇を狙う野球部を突き放してトップでゴールテープを切ったのはサッカー一部でした。11年ぶり4度目の優勝です。また、同日午後

後に開催されたクラブリーダー研修会では、香田整形外科医院院長香田和宏氏に「スポーツ障害と外傷」についてご講演いただき、参加した各クラブの顧問、代表学生は興味深く聞き入っていました。



# 全国高専体育大会 団体優勝クラブ報告

第46回全国高等専門学校体育大会が8月13日から9月4日まで、関東信越地区で開催されました。徳山高専からは、7月の中国地区大会を勝ち進んだ選手たちが、団体5競技、個人7競技24種目に出場し熱戦を展開しました。

団体戦ではテニス、ハンドボール、バドミントンの3競技で見事優勝、バレーボールが2位、サッカーが3位となり、出場した団体5競技全てが上位の成績となりました。個人戦でも、陸上女子走幅跳、テニス男子シングルス、バドミントン女子シングルス、バドミントン女子ダブルスで優勝するなど好成績をおさめました。

団体優勝した3クラブの学生や顧問教員に、高専体育大会等の感想などについて書いてもらいました。

## バドミントン部 男子団体、女子単・複・団体で優勝！ 第46回全国高等専門学校体育大会バドミントン競技

情報電子工学科4年 藤山 貴幸

僕たちは、全国高専大会「団体」優勝を目標に今まで練習してきました。

去年、初めて全国高専大会に出場することができたのですが、団体戦では2回戦敗退という結果に終わってしまい、とても悔しい思いをしました。個人戦ダブルスでは優勝しましたが、団体戦で勝てなかったという思いは拭いきれませんでした。「団体戦で勝てないのがこんなにも悔しいのか」と、部員全員が実感したと思います。

それからは、その反省を生かし、今までよりいっそう「団体戦で優勝したい」という思いを抱きながら、日々の練習に励みました。

そして、今年の中国高専大会では、団体戦、個人戦すべての種目で男女ともに全国高専への切符を手にすることができ、「団体戦で勝つ」という目標のもと挑んだ今年の全国高専大会では、悲願の団体戦全国優勝を成し遂げることができました。個人戦では、シングルス（瀬島）、ダブルス（藤山・瀬島）

ともに、惜しくも準優勝という結果に終わってしまいました。それでも団体戦で優勝したということは、僕たちにとってとても大きな喜びとなりました。

来年は「団体戦全国2連覇」という目標と、それに加えて今年成し遂げることができなかった「全国高専3冠」、女子と合わせて「全国高専6冠」という目標を掲げて、日々の練習をよりいっそう頑張っていきたいと思います。

情報電子工学科4年 古城 朋子

今年の全国高専大会の目標は、団体、ダブルス、シングルス全てを徳山高専で優勝することでした。4年生になって大会数や練習量が減り、今までで一番不安な状態で試合に臨みました。正直、目標を達成できるかすごく不安で、とにかく一生懸命やることだけを考えていました。

でも、今年は団体とダブルスは優勝、シングルスは準優勝することができて、私にとって一番良い成績を残すことができました。ダブルスペアの河村さんもシングルスで優勝したので、女子は徳山高専で三冠とることができました。

試合では、やはり体力もなくてつらかったです。でも、部活のみんなや保護者の方々、他校の人などたくさんの人たちの応援がすごく大きかったです。過去に負けていた人にも勝つことができ、シングルスで初めて決勝戦まで進み記録を残すことができました。団体も初めて優勝してやっとみんな、喜ぶ



ことができました。不安なことが多かった分、今までで一番良い成績を残せたので、すごくうれしかったです。試合には完璧な状態で臨めなかったけど、気持ちを強く持つことで勝つことができました。今年の試合では、何事も気持ち次第だということをしごく実感しました。

来年は男女共に優勝して、六冠という最高の記録を残したいです。来年は高専生活最後の大会です。今までにない記録を残して、部活の仲間や保護者の方、たくさんの人たちと喜びを分かち合いたいです！

#### 土木建築工学科4年 河村 美咲

4年目の高専大会では、今までずっと目標にしてきた三冠をとることができました。何より嬉しかったのが、みんなで頑張って勝ちとった団体戦優勝です。団体戦ではいつも悔しい思いをしてきました。

このような成績を残すことができたのは、ダブルスパアである古城さんをはじめ、部活の仲間、先生、コーチ、応援して下さった保護者の方々のおかげです。自分ひとりの力では絶対に達成できていなかったと思います。試合が終わった後の達成感は今までに味わったことのないものでした。

4年生になって高体連を引退し、練習量もかなり減ったので、今回の試合は正直不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、いつも元気をくれる古城さんや、いつも一生懸命な後輩、いつも全力で指導して下さるコーチのおかげで頑張ることができました。「自分はたくさんの人に支えられているんだ」と、すごく実感した試合でもありました。

来年は今年よりももっと練習量が減ると思うし、進路のことなど色々大変だと思いますが、一番の目標であるダブルス五連覇を目指して頑張ろうと思います。そして、最後の高専大会でも三冠をとって有終の美をかざりたいです。

#### 顧問 柳澤 秀明

バドミントン部の全国高専体育大会は、平成23年8月27日(土)、28日(日)に、栃木県立県南体育館で行われました。団体戦では、男女初優勝、個人戦でも男子ダブルス2位(IE4藤山貴幸・ME3瀬島史也)、シングルス2位(ME3瀬島史也)、女

子ダブルス優勝(IE4古城朋子・CA4河村美咲)、シングルス優勝(CA4河村美咲)、2位(IE4古城朋子)と、とても良い成績を残すことが出来ました。

女子団体戦は、3年間3位と悔しい思いをしてきましたが、やっと優勝する事ができました。

また、女子ダブルスでは4連覇、女子シングルスでは3連覇と記録を更新する事ができました。来年度も良い結果が残せるように頑張ってもらいたいと思います。



# ハンドボール部15年ぶりの全国優勝

## 第46回全国高等専門学校体育大会ハンドボール競技 〈第38回全国高等専門学校ハンドボール選手権大会〉

ハンドボール部は平成23年8月27日（土）～28日（日）に、川崎市とどろきアリーナで行われた全国高専体育大会で、15年ぶり2回目の優勝をすることができました。

### 機械電気工学科5年 主将 松永 佑介

高専に入ってから5年間、初めての優勝と言う言葉に最初は戸惑いしかありませんでした。

始めたころはなかなか勝つことができず、苦い思いをしてばかりでしたが、チームメイトに恵まれ、日々の練習に対して懸命に取り組んだ結果が、この優勝につながったと思います。昨年の主将が導いてくれた全国への道を絶やさず、全国への切符を手に入れたので、「今年こそは！」と言う気持ちを胸に試合に臨めたことも勝利への一因でしょう。

歴代の主将のみなさん方が繋いでくれていたこのバトンを上手く次に繋げることができてよかったです。次の代へのプレッシャーではないですが、悔いの残らない試合をしてほしいと思います。

しかし、僕は主将としてチームを支えるというよりも逆にチームメイトに助けられてばかりいたんじゃないかなって思います。みんなと一緒にプレーできた時間が本当に楽しくて、過ぎていくのを惜しむばかりです。一年間、何度も何度も不満を言いたいことがあったらうけど、大きな不満を言わず、僕を慕ってついてきてくれて、こんなにもすばらしい結果をともに分かち合えたみんなには感謝してもしきれないくらいです。

### 機械電気工学科4年 山本 昇

僕が入部して3回目となった昨年の中国大会、けが人を多く出しながらも中国大会で優勝し、ハンドボール部としては13年ぶりに全国の舞台に立つことができましたが、全国ではわずかに1点差で予選敗退と非常に悔しい結果に終わってしまいました。

そこから、新チームではどうすればあの1点差の借りを返せるかみんなまで考え話し合っって練習に取り組んできました。指導者や練習環境の面で苦しいこ

ともたくさんありましたが、中国大会を2連覇し再び全国の舞台に立ちました。そこでも常に1点の重み、昨年の悔しさを忘れず、徳山高専らしい試合ができたからこそ、優勝という結果がついてきたのだと思います。キャプテンの松永先輩をはじめハンドボール部全員、そして昨年悔しい思いをした先輩、みんなの努力が報われた最高の瞬間でした。先生、マネージャー、その他ハンド部を応援してくれたすべての方に感謝の気持ちでいっぱいです。

松永先輩から引き継ぎ新たにキャプテンとなりましたが、毎日、真面目で明るく非常にいい雰囲気練習に取り組んでいます。中国3連覇、全国2連覇目指して頑張りますので、新生ハンドボール部もよろしくをお願いします！

### 機械電気工学科3年 青木 佑介

第38回全国高専選手権大会の舞台となった神奈川県川崎市とどろきアリーナは、中東の笛で問題となった男子アジア予選のやりなおし大会の会場だ。

順調に勝ち上がった決勝戦、10点のリードで迎えた後半15分、振り返ってみるとみんな落ち着いていた。前回大会では試合終了直前、2点のリードを逆転されて悔し涙を流した。そんな先輩方の無念を晴らす思いで臨んだ今大会、優勝の瞬間には自然と嬉しさが込み上げてきた。それは、この2年間、部員の入れ替わりや体育館が使えない練習環境の中、ハンドボール部としてさまざまな困難を乗り越えてきた結果のような気がする。

これからも山本先輩を中心に、徳山高専ハンドボール部は優勝を目指し、成長していきます。応援ありがとうございました!!



# テニス部飛躍の一年

## 【テニス部代表顧問】 機械電気工学科 桜本 逸男

平成23年度は、テニス部にとって大きな収穫のある1年となりました。中国高専大会団体2連覇に始まり、全国高専大会団体初優勝、山口国体、高体連など数々の好成績を取ることができました。

## 【高専大会】 全国高専体育大会 男子団体初制覇、個人男子シングルス2連覇

平成23年度の全国大会は、千葉県の白子町で開催されました。白子町は九十九里浜の側にあり、町内にテニスコートが300面以上あるという全国でも指折りのテニスリゾートです。昨年度、金沢で開催された全国大会では、男子シングルス、ダブルスの2冠を取ったものの団体準決勝で福井高専に敗れていましたので、今年こそ念願の団体初優勝を目指して白子に入りました。

徳山高専の団体は、ダブルスがIE5原田、ME1齋藤、シングルス1 (S1) がCA4寺本、シングルス

2 (S2) がME2伊藤、補員がME3東中、ME1原田のオーダーです。団体戦は、ダブルスとシングルスで3試合行い、2つ取った方が勝ちになります。一回戦は、木更津高専に2-1、2回戦は石川高専に2-1、準決勝は福島高専に2-0 (打ち切り) と順調に勝ち上がりました。最後の決勝の相手は、S1に北海道の高校チャンピオンを有する旭川高専でした。この試合、S1の寺本選手も2セットまでリードしていましたが、初戦からの3試合に勝ちが無かった原田、齋藤ペアがS1の試合よりも先に勝利を収め、2-0で見事初優勝を飾ることができました。

この大会で、個人シングルスも寺本が優勝して全国2連覇を取りましたが、ダブルスでは2回戦で宿敵の福井高専のペアに敗れ、残念ながら全国3冠を取ることはできませんでした。高専大会で団体、シングルス、ダブルスの全国3冠というのは、技術のみならず体力と運も必要であり、なかなか取れるものではありません。しかしながら、寺本選手は最後の年となる来年度にきっと成し遂げてくれることでしょう。

写真：全国高専大会優勝（千葉県白子町）





写真：CA4 寺本

### 【山口国体】寺本主将、山口国体テニス競技成年の部で山口県代表として出場

山口国体テニス競技成年の部は、周南市の麒麟ビバレッジ庭球場で10月1日～5日に開催され、本校テニス部から成年の部の山口県代表として、主将の寺本が出場しました。国体の開催自治体にある学校から成年の部の代表として選手が出場することは極めて稀なことだと思われます。寺本は、昨年も千葉で開催された国体少年の部に山口県代表として出場しており、今回は更にレベルの高い成年の部での出場を目指したものです。国体に先だち、成年の部の山口県予選会が6月に宇部市のテニスコートで開催されました。県予選の決勝リーグの相手は、国体出場常連のハイレベルな選手でした。初戦は、全日本ランキングの40位の選手に3-8で敗れましたが、第2戦に8-1、最終戦に9-7で勝利し、全体で2位となり成年の部での出場権を得ました。

国体成年の部は、代表選手2名によるシングルス2試合、ダブルス1試合で行われ、勝敗が決まります。初戦の相手チームは岡山県でした。試合では、S1が惜しくも敗れましたが、S2の寺本は岡山県のS2に勝つことができました。残念ながら続くダブルスで敗れて山口県チームは敗戦しましたが、岡山県は最終的に3位に入る強豪チームでしたので、寺本選手の勝利は見事であったと言えます。

なお、山口国体では、本校テニス部からも役員や補助員として大会運営に携わりました。

### 【高体連】中国地区高等学校新人テニス大会 個人シングルス準優勝、個人ダブルス3位、全国選抜高校テニス大会山口県予選 男子団体3位

第5回中国高等学校新人テニス大会が、11月19日～20日に、宇部マテ“フレッセラ”テニスコート

で開催されました。中国地区各県の高校の強豪相手に激戦続きでしたが、伊藤がシングルス準優勝という快挙を収めました。また、ダブルスでも伊藤、齋藤ペアが第3位と活躍しました。ちなみに、彼らは9月に行われた山口県予選では、シングルス、ダブルスとも優勝をしています。

また、10月29日～31日に開催された選抜高校テニス大会山口県予選では、団体3位という過去にない好成績を収めることができました。この大会での団体の構成は、ダブルス2ペア、シングルス3人であり、最低でも7名のメンバーが必要な大会です。メンバーのうち5名が1年生で構成されており、来年度も活躍が期待されます。



写真左：ME1 齋藤、右：ME2 伊藤

### 【テニス部主将】土木建築工学科4年 寺本 嵩史

今年度はテニス部にとっても私にとっても、躍進の年となりました。

自分の中で一番成長できたと思うことは、キャプテンになって初めての高専大会です。昨年度は、団体戦の準決勝で敗れてしまい悔しい思いをしました。だから今年度は絶対に勝つという意気込みを抱えて望み、チームで見事に優勝することができました。

さらに、今年度は国体予選を2位で通過し、地元開催である山口国体にも出場することができました。この大会に出場できたのも、応援して下さった方々のお陰です。結果は1回戦負けでしたが、精神的にも大きな収穫があったのではないかと思います。

今年は、昨年・一昨年ともに2冠で達成できずにいる全国高専大会3冠を目標に頑張っていきたいと思っています。

下級生たちも結果を残し始め、実力者が揃ってきているので、インターハイ全種目出場を目指してもらいたいです。

# 第37回 高専祭 『Peeece!!』を終えて - 10月29日(土)・30日(日)開催 -

## ■学生会長 木本 雅俊

昨年の大成功の高専祭から1年。昨年の高専祭を上回りたいという学生会全員の思いの下、準備を始めました。スポンサー費の増額によるステージ企画、メイン企画の盛大化を図りました。

例年にはなかったゲストの誘致など、いつもとは違う高専祭を学生の皆さん、地域の皆さんに味わってもらえたのでは？と思います。正直、自分の力よりも学生会の周りのメンバーの頑張りのお陰で最高の高専祭になったと思います。多くの人々に支えられ無事終了して本当に最高です。本当にありがとうございました。

## ■高専祭実行局局長 渡辺 恭宏

今年はかなり制約の多い中での高専祭だったので、計画していくときからかなり大変でした。そんな状況でも、今年は今までにないような過去最高の高専祭を作ろうと新たな事にたくさんチャレンジしました。僕たちにとってはマチガイなく過去最高の高専祭でした。今年の高専祭の実行委員長を経験できたことを誇りに思います！！最後に、高専祭に関わって頂いたみなさん、本当にありがとうございました。

## ■メイン 中本 凌輔

昨年からメイン企画を手伝わせてもらって、先輩方と一緒に夜遅くまで楽しく作業をしてきましたが、今年は楽しさよりも辛さのほうが強かったです。メインのメンバーをはじめ、たくさんの学生会役員の協力があったので成功でした。毎年そうだと思いますが、ME、IE、CA全ての学科の力が、例年よりも一層集結していたと思います。部署長



ステージとエコキャップアート

という立場にプレッシャーを感じて、やめたくなくなりましたが、この学生会メンバーと一緒に最後までやり遂げることができて良かったです。張間先生や、新田先生など、たくさんの先生方にも助けていただきました。このメイン企画に携わってくれた全ての人に感謝の気持ちでいっぱいです。

## ■ステージ 高村 勇介

去年のステージを超えてやろうと思い、新しい企画をたくさん取り入れた今年のステージ企画は最高の盛り上がりでした。特に、山口県ご当地アイドルをゲストに招いたクイズ企画では、観客だけでなく僕たち主催者側も楽しませていただきました。学生会全員の力で作り上げた「エコキャップアート」も大盛況で、個人的には去年を超えたと思っています。たくさんの方に「面白かった」「楽しかった」などの言葉をいただいて、本当にやってよかったと思いました。ありがとうございました。

## ■会場 安野 淳晶

僕は去年に引き続き、会場の仕事をやらせていただきました。今年は一日目に満車になってしまい、会場メンバー総動員で何とか乗り越えることができました。二日目も大雨でしたが、交通問題対策委員も協力してくれて、一日目も二日目も無事に駐車場整備をすることができました。高専祭が無事終わってとても嬉しかったです。

## ■美化 渡邊 拓也

高専祭までの活動は「高専祭まであと〇〇日」の看板を作り直したり、当日の環境委員のスケジュールを考えたりと色々な準備をしました。当日はゴミの分別、回収、焼おにぎりの販売をしました。美化以外の仕事で忙しい時も美化のみんなや、他の部署の人が手伝ってくれたのでとても助かりました。

今回の高専祭で情報を共有することの大切さ、人との協力の大切さを実感することができました。みんなお疲れさまでした。

## ■ロボコン 吉岡 弘貴

周南ロボコン2011は例年通り多くのエントリーに加え、メカトロ部からの参戦もあり、非常に大きな盛り上がりを見せました。部署としては、

サンプルロボットの考案、製作教室の開催から大会の運営に至るまで様々な仕事があり何かと大変でしたが、無事、大成功を収めることができ、現在は誇りと達成感で満たされています。最後になりますが、大会の運営やその準備等に協力してくださった方々に深くお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

#### ■案内 小島 佳菜

案内の部署長をした小島です。案内では例年どおり、本校校門へ門を設置し、新たに案内板の設置も行いました。昨年のもより、より良いものを。という思いを常に持ちながら、制作を行いました。案内以外の部署の人たちの協力もあり、最終的に昨年を越えるものができたと思っています。みなさん、本当にありがとうございました。

#### ■ファッションショー 友景 あゆみ

今年はステージが体育館の中だということで、新たな照明と演出に試みました。成功するか最後まで不安でしたが先輩や後輩、観てくれた皆様に“すごいよかった!”と言って貰え、やってよかったと心から思いました。出演者、裏方のみんな最高のステージをありがとう!!

#### ■物品・バザー 藤山 貴幸

学生会の一員として、物品・バザーの部署長をやらせてもらって、行事においての裏方の大切さを、身をもって体験することができました。高専祭当日は、雨でバザーが中止になるのではないかと心配しましたが、なんとかバザーを実施できて、本当に安心しました。高専祭を通して、高専祭は、全ての学生一人ひとりの努力で成り立っているのだと実感しました。高専祭の運営に関わった全ての方々、ありがとうございました。そして、学生会の皆さん、本当にお疲れ様でした!

#### ■広報 貞廣 綺子

今年の高専祭、私は広報として、ポスターとパンフレットの製作を任せられました。正直不安がなくて、仕事も遅いので、たくさんの人に迷惑をかけたと思います。でも、おかげでたくさんの人と関わって、仲良くなることができました。あんなに馬鹿騒ぎすることなんかもう無いと思います。楽しかったです。ありがとう!

#### ■スポンサー 中村 菜恵子

スポンサーの仕事は、お金の管理、広告の編集、企業への対応など一つひとつが責任の重い仕事で、とても大変でした。自分一人では上手くこなせず、たくさんの方の協力があったからこそやり切ることができました。準備期間中は合宿所でみんなと仲良く作業できて、とても楽しかったです!

最高のメンバーで作り上げた最高の高専祭、一生忘れません。みんなありがとう!

#### ■ライブ 山本 寿隆

ライブは主に会場全体の照明・音響機器の設置に関する仕事をさせていただきました。会場全体の照明・音響機器の設置は、その分野について無知な自分にとって本当に大変で、高専祭の全スケジュールが終了したときの達成感は言葉では言い表せないくらい大きなものでした。みんなで作り上げた高専祭。あの最高なひと時をたくさん仲間と過ごすことができて幸せでした。この学生会メンバーで最後まで頑張ってくれたことを誇りに思います。みんな、お疲れ様でした。そして、ありがとうございました。

#### ■1年生企画 山本 昇

1年生企画は今年から新たな試みとして始まりました。そのため、頼れる先輩方はおらず、本当にゼロからのスタートでしたが、ほかの部署の手伝いもあり、何より1年生が一生懸命がんばってくれて、3クラスとも大成功に終えることができました。一人ではできない仕事がたくさんあり、仲間の存在の大きさ、大切さを感じることができました。同じ1年生企画担当の徳浪さんをはじめ、学生会のみんな、1年生のみんな、本当にありがとう!



高専祭終了後に記念撮影

# 紹介します！ 「高城寮の1年間」

寮務主事 田村隆弘



寮生会執行部と寮担当教員

高城寮には県外から集まった人だけでなく、地元出身の人もいますが、いずれも自立心と好奇心旺盛な元気な人たちです。ここでは、そうした高城寮生の1年間の行事等をご紹介します。

## 学寮の主な年間行事

- 4月 入寮式  
リーダー研修会  
寮生総会  
新入寮生歓迎マッチ
- 5月 ゴールデンウィーク閉寮  
避難訓練  
勉強会
- 7月 学寮保護者会  
学寮見学会  
勉強会  
七夕
- 8月 夏期閉寮

## 平成23年度 寮生会執行部

寮生会長	山本 昇	選挙管理委員長	村上 智哉
寮生副会長	大塚 雄太	盗難防止会計部長	中野 貴文 吉永 佐貴
副会長(女子寮長)	吉田 望央	企画部長	竹中 亮 浅本 紗希
内務部長	渡邊 拓也	留学生代表	ファトゥ
女子寮内務美化部長	岡田 真紀	指導寮生長	高村 勇介
美化・厚生部長	山本 寿隆	書記	小野 宏陽
体育部長	大和 三晃	電算機委員長	佐伯 敬志 山本 有倫華
体育副部長	藤村 行亮		
文化・広報部長	白石 潤一 尾崎 友亮 澄岡 ほか		

## 4月 入寮式

希望と不安で緊張した面持ちの1年生が入寮してきます。



## 5月 ラジオ体操



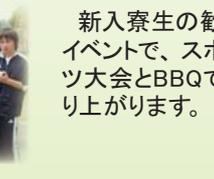
5月、新緑の中のラジオ体操です。規則正しい生活と健康、挨拶や清掃が寮生活の基本です。

## 避難訓練



いざという時の消火訓練に留学生も真剣。

## 新入寮生歓迎マッチ



新入寮生の歓迎イベントで、スポーツ大会とBBQで盛り上がります。

## アセンブリ



毎月1回行われるアセンブリ（寮生集会）は、寮生会が進行しますが、月によって、校長先生の訓示や留学生のお国紹介があります。毎回、寮務主事の注意があります（耳にタコができます！）

- 9月 寮生総会  
学寮保護者会
- 11月 寮祭  
勉強会
- 12月 予餞会  
冬期閉寮
- 1月 寮生会選挙  
寮生会役員引継ぎ  
留学生のつどい  
勉強会
- 2月 卒寮式  
春期閉寮

### 勉強会



勉強会は、試験の約1ヶ月まえから試験週間に入るまで行われます。寮生の成績は、...ここだけの話ですが、実は通学生より良いんです！（ワー、言ってしまった。）

### 7月 七夕



女子寮主催のイベントでしたが、最近、男子も一緒になって盛り上がります。

### 寮祭

過去には、登山やボート大会や旅行など、いろいろなイベントが行われています。今年も、出身地を東西に分けて、40人41脚などのスポーツマッチを行いました。



### 朝食の風景



朝食は元気の源。和食と洋食が選べます。

### 12月 予餞会



4年生以下、下級生がお世話になった5年生へのお礼のイベントです。下級生からさまざまな余興が繰り出され、5年生からは思い出の品々のプレゼントが配られます。

### 1月 留学生のつどい



寮だけでなく、留学生がお世話になった皆さんと楽しく過ごすひと時です。

### 2月 卒寮式



みんなで先輩を見送ります。

・ 後輩諸君へ ・

## About my country - Vietnam!

**Dinh Thi Thu Ha**

H19 (2007) 年3月土木建築工学科卒業

徳山高専の皆様、お久しぶりです。

元留学生 (04-07) のハです。(現在日本企業の社会人として9カ月無事に経ちました)

「留学生だより」により、徳山高専の土木建築工学科の先生方をはじめ徳山の方々に「warmly greeting in New year 2012」をさせて頂きたいと思います。

時間が経つのは早いものですね。もう約9年間日本に住んでいます。

ですが、

ベトナムが現代日本と違って旧正月を迎えるので、今年は9年ぶり母国で迎春できて、大変嬉しいです。その気分を持ちながら、皆様に私の出身地をはじめベトナムの観光について紹介致しますので、宜しくお願い致します。

1990年当初、ベトナムには観光地はほとんど無く、ベトナム旅行といえば団体のツアーでホーチミン市に訪れるくらいでした。しかしながら、ベトナム政府や各地方省の積極的な観光開発、国際機関・援助団体による資金援助や技術協力、国内・海外企業の観光関連投資などにより、現在までに数多くの観光地が作り出されました。現在のベトナム旅行者は、歴史・文化遺産の見学やアジア的風情を残す都市の散策、ビーチ・リゾート、エコツアーなど多彩な観光を楽しむことができるようになりました。

私はベトナムの中部・ダナン市で生まれました。私の幼年期の思い出では、ダナンは調和した海、山、川および農地の景色がある都市でした。中部地域の代表的な観光地はフエ省のフエ王宮群、クアンナム省ホイアンの古い町並み、同じくクアンナム省のミーソン遺跡群といった歴史・文化遺産です。いずれも世界文化遺産に登録されています。現代のダナン市も中部地域の有名な観光地です。

ダナンを訪れるとき、どんな観光客でも自分の気に入る所をすぐに見つけることができると思いま

す。植物や動物の種類が多くある熱帯原生森林、独特な魅力を備えた東洋の海の海岸、絵のような美しいハン川などからダナンの魅力を作り出します。特に、ダナンは中部地方でのフエ王宮群・ホイアンの古い町並み・ミーソン遺跡群3つの世界文化遺産サイトの中心に位置して、森、川、海が揃った自然豊かなところなんです。土地を訪れる人が増えるために、ダナン市の治安、衛生や交通・通信インフラなど、社会基盤を発展しています。私が日本に来る前に比べて現在のダナン市は海に沿い道やハン川を渡る橋の6つ等から特に夜景がとても綺麗になりました。さらに、ダナン市にある道路、海路、鉄道および航空路のネットワークにより中部地域観光へアクセスが便利になりました。ハン川や海岸のそばにある美しいダナンと共に、心が暖かくダナンの人々によって、これから国内及び海外からの観光客に人気がある観光スポットになりつつあると思います。

上記の紹介が簡単ですが、是非ベトナム・ダナン市を訪ねてください。

Welcome to my country Vietnam - my city  
Danang city

2012/01/15

T.Ha



高専卒業の時



ダナン市の夜景

## ・卒業する留学生・

### 留学してよかった

情報電子工学科  
トゥグス  
(モンゴル)



2007年の夏休み、友人に「日本へ留学するための試験があるらしいが、一緒に受けないか。」と誘われて何も考えずに、英語の試験がないから高専を選んで試験を受けた。合格できた後もあまり興味がなかったが、父に「若いうちに色々経験したほうがよいのでは。」と言われて留学を決めた。日本に来て1年間、東京で世界各地から来た留学生と一緒に日本語を習ってから、科学や技術を学ぶため徳山高専に来た。

日本は母国とは違う文化だが、高専というのはこの違う文化の中でも別の社会だった。留学を決めるとき、イギリスやアメリカのCollegeをイメージしていたが、Collegeではなく高専だった。最大のイメージの違いは全然自由がなかったこと。日本人はすごくルールを守ることを東京ですでに分かっていたけれど、高専は特別。20年間両親にも制限されずに自由だったから苦痛だった。しかし、ルールを守ることは悪いことではないと思い我慢していたらいつの間にか慣れていった。

また、3年生の前期中間試験の後、「過去問」という言葉を初めて聞いた。昨年試験の問題に似た問題が試験に出ることを知ってびっくり。そこで、前期末には「過去問」から日本人学生たちと同じ形で試験勉強をした。しかし、期末試験の結果をもらってもっとびっくり。「過去問」と似た問題が出たのにいっぱいミスがあった。そこで、自分が面白いと感じたことは必死にやって、他のことはやったふりをしていたことにはじめて気づいた。

このようなことがたくさんあったが、それらによって、少なくとも自分を違う目で見ることができた。今になって考えると、徳山高専にきて科学や技術というより、グローバル化されている世界の中で技術者として歩いていく考え方を学び、成長したと思う。

### つながりを大切に

チューター  
情報電子工学科  
荒井 勇貴



三年生の春、新しい仲間が遠くから遥遥やってきました。はじめて彼に会った日の夜、お互いの文化の違いを打ち明けあい、すっかり語り明かしてしまったのを覚えています。僕に初めてできた遠くからの友達、トゥグス君は僕にとってかけがえのない存在です。

「チューター、やってみないか?」当時の担任の先生からそう言われてもう3年、とっても個性派な彼との学校生活は思い出深いものばかりでした。

第一印象こそ真面目で、話しかけにくいと感じたものの、話してみると昔から友達だったみたいに気さくで、それでいて優しく、あっという間に、「留学生とチューター」という関係から、「普段から仲の良い友達」へと変わっていったことがとても印象に残っています。

更に彼は、勉強が芳しくない僕の先生役を務めてくれたりもしました。テスト前日の夜遅くによく危機感を感じ始めた僕に一つ一つ、慣れない日本語で分かりやすく教えてくれました。

慣れない日本語と言えば、一つ、とても印象深かった出来事があります。それは、テスト週間のある日、トゥグス君が「カクモンある!？」と聞いたことから始まりました。当然のように、シャープペンシルを渡した僕ですが、トゥグス君は不思議そうな顔…。

よほど気に食わないシャープペンシルだったのだろうか、などと思った僕が訳を聞いてみると、「カクモン」と言っていたその正体は「過去問」だったのです。もちろん僕たちは大爆笑。いい思い出です。

こんな風に笑い合っただけで過ごしてきましたが、そんな彼とも、もう少しでお別れです。ですが、このつながりはずっと大事にしていきたいと思っています。

チューターとしてではなく、一人の良き友人として。

・ 今年の思い出 ・

★留学生見学旅行 (H23.5.7-8)

「大分水族館うみたまご&別府地獄めぐりの旅」+お勉強もね!

毎年寒い時期に行う恒例の留学生見学旅行ですが、今年は年度始めのオリエンテーションを兼ねて季候穏やかな5月に大分県別府方面に行ってきました。さて、どんな旅になったのでしょうか。



さあ、出発だ!



壇ノ浦SAで休憩。



豊後高田到着!まずは腹・・・



「昭和の町」で、水餃を練りながら紙芝居を体験。楽しんだのは留学生より引率の先生方?



ホテルでまじめにオリエンテーション☆



みんな大好き♪バイキング!



二日目、出発☆



大分マリンパレス水族館「うみたまご」の水族館初体験の留学生も驚きの中、存分に楽しみました。



血の池地獄で"あかっ!なぜ?"



竜巻地獄で。間欠泉の噴出に!!



ただいまー。お疲れ様。

## ★留学生のふるさと展 (H23.7.23)

8回目を迎える毎年恒例のこのイベントは、徳山高専で学ぶ4カ国6人の留学生の母国を紹介することで周南地域の方々に留学生と各国のことをより深く理解していただき、国際交流を深めることを目的に開催しています。モンゴル、セネガル、カンボジア、そして今年新たに仲間入りしたケニアの留学生とサテライト委員の学生、教職員が協力し作成したパネルの展示や工夫を凝らしたプレゼンテーションにより母国の紹介を行いました。



「日本に来て母国との違いにびっくりしたことは？」という質問に対する留学生の回答に、市民の方は改めて日本と各国との文化の違いについて知り驚いていました。



## ★留学生のつどい (H24.1.14)

厳しい寒波の狭間で晴天となったこの日、18回目となる「留学生のつどい」が本校の学生食堂で開催されました。この会は、日頃からお世話になっている方々をお迎えし、感謝すると共に交流を図るための毎年恒例のイベントで、3月に卒業する留学生の送別会も兼ねています。

本校の留学生にも多くの支援をいただいている「徳山高専テクノ・アカデミア」の小野会長からいただいた乾杯のお言葉に始まり、留学生全員から「おかあさん」と親しまれお世話になっている地域の方や毎年国際交流の授業にお邪魔させていただいている小学校の先生などから思い出のスピーチをいただき、会は和やかに進んでいきました。



卒業生を送る留学生が自ら作成したスライドショーやクイズ大会なども行われ、参加者みんなで「世界にひとつだけの花」を合唱し卒業生を祝福しました。

会場は、冬の日の陽だまりのような暖かい空間となり参加された方々の笑顔がいつまでも続いた一時となりました。



# 機械電気工学科

## 就職・進学状況

### 機械電気工学科の就職と進学 に対する準備と対応



5年担任 機械電気工学科  
教授 藤田 重隆

平成23年度の機械電気工学科5年生は44人で、就職希望者25人（公務員1人）、進学希望者19人であった。平成23度の就職状況も昨年に引き続き厳しくなることが予想されたので、早めに対応した。

平成22年の4年生の4月当初から就職希望者には就職ガイダンス、進学者への進学ガイダンスはクラス全体と個別に行った。就職希望者には、自分がやりたい仕事とその仕事ができる会社について調べるか、または私に聞きに来るように指示をした。一方、国立大学への進学希望者には、各大学の教務係から編入学試験の関係書類の取り寄せを指示した。

その後、平成22年の11月頃に、就職希望者と個人面談を行い本人の希望職種と会社名を聞いた。しかし、自分の希望職種の認識および理解が出来ていない学生については、再度面談して希望職種についての話をした。さらに、SPI試験については、関係する本の入手と対策を十分にとるように指示した。また、進学希望者には、平成22年度の試験問題および過去問題の入手とその対策を指示した。

年が明けて平成23年の4年の学年末の試験が終わる2月中旬から、各学生の就職希望の会社に連絡をとり、3月に見学できる会社には見学に行かせ、工場見学、会社の仕事内容の確認および高専OB（どの高専OBでもOK）との面談をさせた。また、3月中に見学に行けなかった学生についても、就職試験の前には一度会社に見学に行かせた。この見学は、お互いを確認し、ミスマッチを少なくすることが目的である。見学してきた学生のほとんどは、その会社を受ける意志を示したが、数名は会社が自分に合わないと思うということであったので、他の会社を勧めてその会社を見学させた。なお、まだ職種を決めかねている学生については再度面談し、それでも決められない学生には、各学生の適性等を見て適切

と思われる会社を提示した。

正式な就職試験は、大学生と同じくかなり早い時期から始まり、順調に推移して、民間への就職希望者全員が6月の第1週には就職先が内定した。さらに、公務員希望の学生も、12月末には内定した。詳細には、民間会社の1回目の試験で24名中19名内定、2回目と3回目の5名も6月3日までには内定した。不合格者は、のべ6人であった。

なお、学生が就職を希望した会社、特に徳山高専OBが就職していない会社へは、就職試験の前に私が本社または工場を訪問し、高専OBの仕事の内容と処遇等を確認した上で、就職希望の学生に関する情報を人事担当者に伝えた。これまでに関係のある会社についても出来るだけ訪問し、人事担当者と話をした。やはり、就職担当者が就職試験前に、その会社の人事担当者と面談し、良好な関係を作ることは学生の合否に非常に関係してくるようと思われる。

また、前述したがほとんどの会社の就職試験の際に行われるSPI試験については、事前の対策を具体的に学生に周知しておくことの重要性を実感した。さらに、本科5年生は19歳から20歳であるため経験不足で、就職や進学の面接に関しては、必ず事前に繰り返して十分練習を行うことは必須である。

一方、進学は徳山高専専攻科が12名、国立大学が7名で、8月中には全員合格した。この結果を見ると、4年生の時から準備が良かったため、ほぼ希望する大学に入れたようである。

以上、就職・進学の担当として、主に就職関係者への伝達情報として書いてみました。なお、学生の就職に対する心構えは、学生自身に4年生の当初から持ってもらうことは重要です。来年度以降も学生にとって良い就職と進学であることを祈念します。

**就職** 関西電力、京セラ、協和発酵バイオ、ジェイベック、新日本製鉄広畑、西部石油、武田薬品、田辺三菱製薬、中国電力（2名）、帝人ファーマ、ディスコ、東ソー（2名）、トクヤマ（2名）、徳山高専職員、日新製鋼、日本ゼオン（2名）、日本海洋掘削、三浦工業、三菱化学、三菱ビルテクノサービス、ムラテック

**進学** 徳山高専専攻科（12名）、岡山大学、九州工業大学、九州大学、神戸大学、東京大学、長岡技術科学大学、名古屋工業大学

## 就職・進学試験体験記

## ● 体験記①

## 就職活動体験記

機械電気工学科5年 廣政 拓郎



まず、高専の就職活動環境の良さ、求人数の多さに感謝します。これも歴代の高専の先輩方や先生方の頑張りのおかげです。

私が就職活動を本格的に開始したのは、4年の10月あたりでした。求人票一覧を見て自分の気になる

企業を全てメモにとって寮に持って帰り、一つずつ調べました。10社くらいに絞って翌日の朝のホームルームで担任の藤田先生に持っていきました。そして「とりあえずA社行ってみるか?」と言われ、すぐに電話をしてくださり、1月初めに工場見学で滋賀へ行きました。さらに1月末にB社の工場見学の募集があったので、率先して参加しました。他にもインターンシップで静岡に行くなど、恵まれた就職活動環境をフルに活用できたと思います。

なぜ日本海洋掘削株式会社に決定したかという「現場に近い職場で働くなら大体はどこも同じような仕事ではないか?なら一番おもしろそうなところに行こう。」と考えたこと。さらに、英語がどうしてもマスターしなかったのですが、普通の企業に入

ったら私の学力では一生マスターできないと思い、ならば「現場が海外のこの企業が私にピッタリの会社ではないか」と判断したからです。ほかにも、給料のことなどももちろん検討しました。その結果、最終的に判断したのが2月初めでした。当初試験実施予定は早めであったのですが、震災の影響もあり先延ばしになりました。しかし、そのおかげで余裕を持って、対応できたのも事実で、5月10日には内々定をいただきました。

これから就職活動をされる皆さん、高専という環境をフルに活用してください。気になった企業はなるべく工場見学をして会社の雰囲気を感じてください。あとは就活と聞くと気が重くなるので、工場見学などで他県に行ったときは、いろんな初めての場所に行ってみてリフレッシュするのもいいことだと思います。私の場合は琵琶湖を横断したり、原寸大ガンダムを見に行ったりなどなど。

最後に、就職活動に携わってくれた先生方、本当にありがとうございました。徳山高専の名に恥じぬように頑張ってきます。

日本海洋掘削

## ● 体験記②

## Overcome myself !

機械電気工学科5年 木村 桂大



私は元々大学へ進学するつもりでこの徳山高専に入学しました。一般の人は認知が薄いかもかもしれませんが、高専から大学を狙うことには大きなメリットがあります。それは受験科目の少なさです。高校から大学を受験すれば国語や社会科目など幅広い一般科目の力が試されますが、高専からならば数学、英語、物理のみと工学系に必要な科目だけで済むのです。これを利用しない手は無い。私は4年の頃から少しずつ受験勉強を始めました。

この段階で受験する大学がはっきりと決まっていたわけではありませんが、とりあえず目標をレベルの高い大学に置いて勉強していました。4年も後半になり、自分の興味範疇が固まってくると、おのずと挑戦すべき大学が絞られてきました。第一志望を東京大学に決めたときは、もう後には引けないと腹を括りました。

その後には過去問を集めて対策に取り組みました。見たところ特に数学は高専のカリキュラムでは学習

しない範囲も含まれており、何度も教授の力を借りて1つずつ問題を潰していきました。英語は長文読解の力とリスニングの力を伸ばすため、インターネットを使つての英字新聞の閲覧及び海外のニュースの視聴を行っていました。単語帳による勉強も勿論大切ですが、「初対面」の英文に対応する力が前者のほうが伸ばしやすいと考えたので、英字新聞とニュースを重点的に勉強に取り入れていました。これはお薦めしておきます。

しかし、毎日思ったように勉強が進むわけではありません。モチベーションの管理は受験生にとって最大の難点でしょう。そこで支えとなるのが共に進学を目指す仲間達です。お互いに激励し合い、怠惰な自分に打ち勝つことができました。ありがとう。結果が全てだと言うのなら、大学に受験して合格した。それだけの話。しかし、自分を信じてこの努力と忍耐の日々を完遂したこと。それが何より喜ばしい。そんな自分の成長が何よりの宝だと感じています。必ずこの先の困難を切り開く糧となることでしょう。

東京大学

# 情報電子工学科

## 就職・進学状況 さあ次は君・あなたたちの番だ



5年担任 情報電子工学科  
教授 義永 常宏

今年度の進路指導を担当した中で、その状況や気づき、留意事項、あるいは感想などを記したいと思います。

まず、就職関連ですが、他年度と大きく異なる点は、昨年3月に東日本大震災が勃発したことです。被災した学生への配慮から、大手企業を中心に何社かの採用選考が延期されました。当初、この影響が懸念されましたが、クラスの大半は、予定・計画通りに選考スケジュールを実施した企業を受験したこともあり、特に大きな混乱はありませんでした。このような中、学生Xは既に数社を受けながら、なかなか決まらずにいましたが、結果的に選考試験を遅らせた大手企業を受ける機会に恵まれ、見事合格ということもありました。

このクラスにおいて、第1志望の企業へ合格した学生は就職希望者全体の40.7%、つまり、半数以上は複数社を受験していることとなります。ちなみに、2社および3社受験の合格者は共に18.5%です。

比較的早期に就職先が決まった学生の多くは、将来何がしたいのかについて早くから明確にし、企業・職種についての研究・調査を十分に行っていたということがあげられます。学生Yは志望する企業について調べたことを整理し、丹念にノートに書き留めていました。採用担当者から「社員以上に会社のことをよく知っている」との感想を合格通知と共に受けたのは4月中旬のことでした。

大半の学生にとってはおそらく初めてである、応募時に必要な履歴書やエントリーシートの作成に苦慮している様子が散見されました。応募締切日間近に提出してきた誤字・脱字を含んだ十分に書き切れていない、かつ推敲していない自己紹介書を書き直させたこともありましたが、余裕をもって臨むためにもこの類の書式・様式に大きな差は無いので、共通記載項目については早くから十分に準備しておくこ

とが大切です。さらには、「資格」欄が空白とならないためにもそれなりの備えが欲しいものです。

採用担当者は、一様に「人物を見ます」と言います。成績上位かつ資格も持っていないながら、数社目にしてやっと合格というケースが複数ありました。就職試験では必ず面接がありますが、短時間で自分の良さをアピールしなくてはなりません。優秀であるにも関わらず、そのことが十分に伝わらないのは残念です。誤解をおそれずにいうならば、そのための演技やテクニックも時には必要と考えます（勿論、不十分な内容で、そればかりに走るの論外です）。

最後まで諦めない意欲や根性といったものも重要な要因でしょう。学生Zは不合格が続きましたが、不採用通知を受取っても「就職したい」という圧倒的な願望は、Zを大きく落ち込ませることもなく、2~3日後には、次の候補企業リストを片手に相談に来ていました。その繰返しの中、過去の反省も生かされつつ、ついには上述の77.7%の中にこそ入れませんでした。採用通知を得ることができました。

次に、進学関連についてですが、以下が示すように、結果的に専攻科進学希望者かつ合格者が随分多い状況となりました。進学の場合は、早期準備が圧倒的に有利であることは言うまでもありません。特に所謂、難関校を目指す人は、一般的に科目も多い、範囲も広い、かつ問題も難しい、といったことから可能な限り早い段階での本格的な受験勉強の開始が肝要と思われます。基礎をしっかりと身に付け、過去問や問題集によって対策することになりますが、受験勉強が中心となり、本業がおろそかになるなどは本末転倒です。大半の“基礎”こそは、学校の授業にあるはずです。

これから就職・進学試験に臨む皆さんも周到な準備を怠ることなく、必ずや栄冠を勝ち取って下さい。

**就職** NECフィールディング、NTTネオメイト、エネルギー・コミュニケーションズ、オムロンフィールドエンジニアリング、京セラ、KDDIテクニカルエンジニアリングサービス、KOUZIRO、コニカ・ミノルタビジネスソリューションズ、新川電機、ダイキン工業、デザインネットワーク、東芝、東ソー、トクヤマ、トクヤマ情報サービス、日東電工・豊橋事業所、日本システム開発、ハツタ山口、バンドー化学、日立ハイテクノロジーズ、富士通アドバンスソリューションズ、富士通エフサス、富士通ゼネラル、山口エヌエフ電子、リコーテクノシステムズ

**進学** 徳山高専専攻科（10人）、愛知工業大学、筑波大学、電気通信大学、豊橋科学技術大学、広島市立大学、ワタナベエンターテインメントカレッジ

## 就職・進学試験体験記

## ● 体験記③

## 就職活動体験記

情報電子工学科5年 瀬田 彩乃



私は徳山高専に入学した当初から、卒業後は就職したいと考えていました。就職について具体的に考え始めたのが、4年の夏休みに参加したインターンシップからです。その企業での体験や社員の方との交流だけでなく、一緒に参加した他高専の学生と進路の話をしたことが、真剣に進路に向き合うきっかけになりました。

4年後期から進路支援セミナーが始まりましたが、自分が何をしたいのかが見えずに悩んでいました。先生に勧められていくつか合同説明会へ足を運び、様々な企業や職種を知る中で、お客様を直接相手にする職に就きたいと考えるようになりました。そこで職種をカスタマエンジニアに絞って企業研究を行い、受ける企業を決めました。

試験の準備段階で一番苦労したのが履歴書の作成です。この企業でなければならぬという強い志望動機が書けず苦労しましたが、友人や先輩方に相談に乗ってもらいながら作り込みました。先

生に推敲を頼みに行っては泣かされましたが、この段階で志望動機を明確に意識できたので、面接の内容は芯のあるものにできたと思います。

試験は事前に行われたWebの適性検査と本社で行われたSPI試験と面接でした。事前の面接練習や履歴書を作り込んだおかげで、面接本番では自分の話したい方へ流れを作ることができ、自分の気持ちをぶつけることができました。

今振り返ると本当に多くの人に支えられて、無事内定を頂くことができました。ほんの数か月の出来事ですが、就職活動を通して非常に濃い経験ができたと思います。

高専の5年間は長いようであつという間です。勉強も大事ですが、遊ぶときも全力で遊んで、新しいことに挑戦してください。何か一つ胸を張って誇れるエピソードがあれば、就職でも進学でも大きな強みになると思います。様々な経験を通して多くの人と出会い、視野を広げて、自分の本当にやりたいことを見つけて取り組んでください。

NECフィールドディング

## ● 体験記④

## 夢を目標にChange!

情報電子工学科5年 福井 勇仁



漠然と「進学」とだけ考えていた私が4年の夏休みに行ったインターンシップ。初めて知る事だらけの中、授業で習った事が役立つ事・自分の知識の浅い事を知り「進学しもっと勉強していこう」と思った。インターンシップ中に会った専攻科生からは「やりたい事が決まっています、それが今の環境でも実現可能な事なら専攻科に進むと良い」というアドバイスを頂き、私は専攻科を目指す事にした。

専攻科を目指して、一番の壁は英語だった。なぜならば専攻科受験にはTOEICで330点が必須だからだ。初めて受けたTOEICは散々な結果だった。なのに、推薦試験を受けるための最後のチャンスのTOEIC時は「もし今回駄目でも、一般入試までに間に合わせれば大丈夫」なんて考えていたからか、330点を上回ることが出来なかった。一般入試を受けるための最後のチャンスになってようやく「このままだとマズイ」と焦った私は、多読やTOEIC対策を毎日行う事でなんと420点も取得出来たのだった。基本情報処理技

術者試験に合格していた私は専門科目をパス出来たので一般入試までの残り時間を数学の試験勉強に費やせた。だが、試験範囲はとて広くすべてを復習する事は出来なかった。まずは過去問を解いて分からなかった部分や間違えた部分を重点的に見直していく事で準備を行い、なんとか無事に専攻科に合格出来たのだった。

まずは、「曖昧な夢は、明確な目標に」「達成までの道筋をしっかり立てて行動する」この2つを知って実行して欲しい。持論ですが、ゴールがあると無いでは継続度が違うと思います。そして、目標を一気に達成するのは難しい事ですが、出来ることから一つずつ行っていけば容易になっていくはず。私がこの事に気付くには時間がかかり、結果苦労をする事になりました。これは、進学や就職だけでなく何をやるにして当てはまる事だと思います。分かっているも実行しにくいでしょうが、皆さんの「目標」が達成に生かされれば幸いです。

【Hope all goes well with you !】

徳山高専専攻科

# 土木建築工学科

## 就職・進学状況 目的・目標を持った進路活動を

5年担任 土木建築工学科  
准教授 島袋 淳

本年度の土木建築工学科の進路状況は45名のうち、就職希望者21名、進学希望者24名であり、例年、本学科の進学希望者は6割近く、もしくはそれ以上を占めるのですが、今年度は例年よりも少ない傾向となりました。

就職希望者の内訳は民間企業19名、公務員2名であり、全員の進路が決定しています。本学科の進路の特徴の一つである公務員ですが、過去には10名程度の志望がありましたが、今年は近年同様の少ない志望者となりました。この原因としては公務員試験の時期が他の就職試験より遅いことにあると思いますが、公務員には利害に関係なく色々な人へ奉仕できる仕事であることや、女性が働きやすい環境であること、雇用の安定といった魅力があると思います。また地方公務員であれば、勤務する地域も限定されますので、転勤等をあまり深く考えないで済むメリットもあります。公務員試験の時期が遅いということで、進路について不安になるとは思いますが、試験の時期が遅いということはそれだけ試験対策が可能であるという風にプラスにとらえ、是非チャレンジしてもらいたいと思います。

民間企業19名については、男子8名、女子11名の内訳となっております。今年の民間就職の特徴としては、卒業生が新卒で入社していない会社への就職が多く、今後の後輩の就職活動のためのOB訪問や相談などができる会社が広がったのではないかと思います。また民間就職には「自由応募」と「学校推薦」での選考方式となるのですが、従来は高専の採用選考は学校推薦での受験がほとんどで、学校推薦は受かりやすいと考えられていたのですが、今年は学校推薦での選考において何人か採用を見送られ、例年よりも厳しい就職活動だったのではないかと思います。この原因としては、企業の新卒採用枠

に対し学校推薦の募集枠を多くし、面接等で学校推薦者の中から優秀な人材を選考していることや、今までは高専のみの採用枠を設けていた企業が、高専と大学を同じ採用枠にすることで大学生が競争相手になり、2年ほど社会経験や知識が豊富な大学生との経験差による会話能力、コミュニケーション能力に競り負けてしまうからだと考えられます。このように学校推薦といっても採用選考方法が厳しく、また大学生との競争もあるため、自由応募とそれほど選考方法が変わらない企業が増えていると思われます。将来、民間就職を希望する学生は専門知識や技術に関して大学生には劣っていないと思いますが、大学生と同じ土俵で勝負し、対応していかなければなりませんので、知識、経験といった大学生との差を補うためにも高専での専門知識の勉強のみだけでなく、新聞や書籍などから社会への関心を高め、部活動ならびに課外活動などによりコミュニケーション能力を養い、就職活動を含めた自分自身の将来像に対し常に目的、目標を持った行動が重要であると考えます。

最後に進学希望者24名の進路については、専攻科12名、他大学編入10名、その他2名となっております。進学希望者は早めに志望する大学等を選定し、その進学先で2年後、どうしたいか等も含めて考えなければなりません。また編入試には成績による推薦があります。将来進学を希望し、推薦を得たい学生は3、4年次の成績が重要で、最低でも1桁の席次が必要だと考え、勉学に励んでください。

土木建築工学科には進路の方向として以上のような方向が主にありますが、いずれの方向においても自分自身の将来に対する目的・目標が重要になります。常々このことを意識し、今後の学校生活を送ってもらえたらと思います。

**就職** 鶴工舎、鹿島クレス、共立測量設計、中国電力、D.BRAIN、東ソー、時盛建設、トクヤマ、長崎建設、中冷、ニチゾウテック、NIPPO、NEXCO西日本、ハツタ山口、村田機械、ライト工業、岩国市、周南市上下水道局

**進学** 徳山高専専攻科（12人）、愛媛大学、九州工業大学、熊本大学、神戸大学、豊橋技術科学大学、長岡技術科学大学、山口大学、立命館大学

## 就職・進学試験体験記

## ● 体験記⑤

## 就職活動を振り返って 土木建築工学科5年 藤井 水晶



「なんで、高専に来たんだっけ？」

就職活動を始め、何度も考えたことだ。

特にやりたいことも、目標もなく学校生活を送ってきた。とりあえず、成績さえよければだれから

も叱られないので、就職活動を始めるまでは自由気ままに過ごしていた。しかし、適当に毎日過ごしていた結果、就職活動では、なかなか痛い目にあうことになってしまった。

まず、自分の受けたい会社が見つからない。やりたいことがないというのはこんなに大変なことだったのか、と初めて思い知らされた。日ごろから、将来のことを真剣に考えずに過ごしていたので、いざという時に自分が今まで何を一生懸命やってきたのか思い浮かばなかった。とりあえず、先生のおすすめで受けた1社目。先生に言われた、「お前なら大丈夫！」という言葉を受に受け、軽い気持ちで受けた会社に、3か月近く結果を待たされた挙句、不採用。面接の時に入社して何がや

りたいかと聞かれた時に初めて、その会社で何がしたいのか考えた。「そんなんじゃ、落ちるのも当たり前だな」と、不採用の電話をもらったときに思った。それと同時に、次に受ける会社と自分のやりたいことを探した。得意なことや、好きなこと、経験したことを思い出し、たくさん考え、やりたいことをなんとか見つけることができた。この思い出す作業をしているときに「きやりPi」がとても役に立ったのを覚えている。それができれば、あとは順調に進み、無事内定をもらうことができた。今、就職活動を振り返ってみると自分のやりたいことを見つけないということが一番難しく大変だった。やりたいことを明確にしておくことが就職活動では最も重要だと私は身を持って感じた。

今では、この就職活動の中で見つけた目標を意識して充実した学校生活を送っている。4月から、社会人としてやっていけるかという不安もあるが、目標がある今の私は無敵状態だといえよう。

NIPPO

## ● 体験記⑥

## 編入学試験を振り返って 土木建築工学科5年 大上 旭



私が大学への3年次編入を決意したのは3年の夏でした。卒業後すぐに社会に出るのではなく、一度地元を離れてもっとたくさんのことを学びたいと思ったからです。しかし当時の私は大学に進学したいと言えるほど成績は良

くありませんでした。先生、両親を納得させるため、まず学校の成績を良くすることから始めました。3年の後期から徐々に成績を良くすることができ、3年の冬頃神戸大学に進学したいと先生、両親に言いました。本格的に受験勉強を始めたのは4年の夏休みからです。大学編入では高専4年次の成績も重要だと聞いていたので、学校の勉強も頑張りつつ受験勉強も頑張りました。授業が終わるとすぐに図書館に行って勉強し、土日も学校の図書館や市の図書館を利用しました。受験勉強の中で一番重点を置いて勉強した科目は英語です。初めて過去問を見たとき長文読解ができませんでした。編入試験の英語は工業系の英語も含ま

れているのでサツパリわからず、英語は受験日まで毎日勉強しました。英語だけでなく物理の電磁気学も苦勞しました。力学はできるものの土木科の私には馴染みのない電磁気学は難しく、先生に聞いたり、他学科の友人に聞いたりして理解を深めました。また、神戸大学に合格された他高専の先輩に連絡を取り、アドバイスをいただきました。数学と専門科目は4年までに習ったことを総復習し、習っていない分野は編入用問題集を利用しました。面接練習を一度もしておらず試験前日になって不安になったのですが、試験当日は意外にもリラックスして試験に臨むことができました。そして、先生方、家族、友人の支えもあり第一志望の神戸大学に合格することができました。本当にありがとうございました。

これから進路を決める後輩のみなさん、早めに自分の進路と向き合ってください。今の成績は関係ありません。これから頑張るかどうかがです。自分の望む道に進めるよう頑張ってください。

神戸大学

# 機械制御工学専攻

## 就職・進学状況

自分の考えで自分で行動。



機械制御工学専攻幹事  
機械電気工学科  
講師 石田 浩一

本年度は機械制御工学専攻の修了生は8名でしたが、進学が少ない学年でした。進路は就職7名、進学1名となっています。今年も例年と比べても就職先に関して何も問題はありませんでした。最近、高専の専攻科の知名度も上がってきたようで、十分な求人があり、選択の幅もありました。しかしながら、徐々に採用に関しては厳しくなっていく状況であったように思います。昨年でもでしたが今年度も、面接で厳しい状況になった学生がいました。求人が多いとは言え、使えない学生を入れてまで、定員を満たすことはないとの考えで厳しく審査していることがよくわかりました。今後もこの傾向が続くことでしょう。それに対処するためには、自分自身の考

えを明確にし、どのように行動すればよいかを常に考えていることが重要です。面接では、何ができるか（これも重要ですが）よりも自分で考え、他とコミュニケーションを取りながら行動できるかを見られているように感じます。即戦力が求められる近年では、専攻科修了の学生の評価が上がってきて、大学生よりも専攻科生を採用したいとの企業も増えてきてはいます。しかし、他高専の専攻科生と大学生との競争になることは変わりありません。就職に対する自分自身の考えをまとめ、何のために専攻科にいるのか、何のために働くのかをよく考えておきましょう。求人が多いとはいえ、すべての会社に面接を受けに行けるわけではありません。本当に受けたい会社、やりたい仕事を見つけるようにしましょう。

進学に関しては、今年は問題なく大学院進学を決めましたが、推薦では成績が前提になる大学もあるので、学力の向上を忘れないようにしておいて下さい。

**就職** NHKアイテック、TOTO、トクヤマ、日新製鋼、日立交通テクノロジー、三菱電機通信製作所、三菱ビルテクノサービス

**進学** 岡山大学大学院

## 就職・進学試験体験記

### ● 体験記⑦

### 私の転機はインターンシップ



私は、三菱ビルテクノサービスへの就職が決まりました。長かった高専での学生生活を終え、来年度からは、社会人としてのスタートを切ることになり、今は不安と期待の両方があります。

ここで少し私の就職活動についてお話ししたいと思います。私は本科5年生の頃、最初は進学を希望していました。しかし、その時は本当にただ、口で言っているだけで大した活動もせず、ギリギリになって就職活動したものの結局、将来したい職業・職種が何かも決まらなかったため、就職という道を断念しました。そして、専攻科に進学し、私は転機を迎えました。それは、専攻科におけるインターンシップでした。私は、長い2ヶ月のインターンシップの中で将来、自分が何をしたいかというのがだんだんと見えてきました。そしてインターンシップ終了後、早速、当校の就職支援ページを活用し、就職活動を始めました。そして、その中で今の就職先に出会いました。そこからは早く、当校に人

機械制御工学専攻2年 清水 朋之

事部の方が来校した時、個別にお話させてもらったりしました。そこで会社のホームページにエントリーし、その後、筆記試験、面接を経てめでたく内定をいただきました。

僕の経験からアドバイスできることは、少ないですがインターンシップや就職説明会という機会は思っているよりも貴重なものです。その一つ一つを大切にかつ最大限の情報等を吸収して行ってほしいです。皆さんの進学、就職が自分が思っている方向に進んで将来、技術者として活躍してくれることを願っています。

三菱ビルテクノサービス

## 情報電子工学専攻

### 就職・進学状況 迷いの中から、筋の通った 進路決定を！



情報電子工学専攻幹事  
情報電子工学科  
准教授 新田 貴之

平成23年度情報電子工学専攻2年生は、8名が在籍しています。内、就職希望が6名、進学希望が2名という状況下で、就職・進学の希望を途中で変更することなく、全員の進路が決定しました。就職活動は、1名あたり1社～5社前後を受けています。進学活動は、例年通り、志望先研究室を明確にして、1名あたり1～2校の受験で、概ね第1志望か第2志望の大学院に合格しています。

例年の稿や上記の稿を読む学生・保護者の皆さんは、「専攻科に進学すれば将来が確約される」との錯覚に陥ると思います。現実の専攻科生は、「先手を打った自発的行動」によって、希望する就職先・進学先を掴み取っています。別稿の学生の体験記を

お読みの上で、しっかりと現状を感じ取って、各自の行動に結び付けて下さい。

表題について、触れます。専攻科生の就職活動は、4年制大学卒業予定者と同等に戦うことが前提であり、自由応募を基本とし、推薦応募を併用します。ここ数年は、推薦応募先への内定が多い傾向があります。これは、3つほどの要因を感じます。まず、推薦応募を認めている企業は、高専への理解があり、就職活動の支障が少ない。次に、自由応募は、時として、修士修了予定者とも戦うため、苦戦を伴う。最後は、学生が推薦を希望する時は、希望先から内定を受領した時には、絶対に就職するという強い意思がある。

近年の就職活動は、webエントリーによって、多種・多彩となっており、意思固めが弱いまま、就職活動を行う姿を見かけます。推薦・自由を織り交ぜながら、「自分が目指すこと」をはっきりとさせる工夫が必要です。来期も健闘を祈ります。

**就職** NTTファシリティーズ、国際ソフトウェア、富士通、富士通九州ネットワークシステムズ、富士通山口情報、プリチストンプラントエンジニアリング

**進学** 電気通信大学大学院、奈良先端科学技術大学院大学

## 就職・進学試験体験記

### ●体験記⑧

### 行動あるのみ。 情報電子工学専攻2年 國本 将也



私は専攻科1年前期のインターンシップをきっかけに大学院進学を決意しました。ここで取り組んだ研究分野への興味が深まり、更に濃い研究をしてみたいと思うようになりました。進学先を決めるにあたっては、学校の名前ではなく、まずは自分の興味ある分野の研究をしている研究室を調べました。興味が湧いた研究室には、夏休みを利用して研究室訪問も行いました。最終的には研究室の設備・体制や、生活環境などを考慮して学校と研究室を絞りました。

私が受験勉強を本格的に始めたのは3月です。数学は過去問を解き、これまで高専で学んだ教科書を全て復習しました。英語はTOEICのスコアを入試成績にすることができたので、TOEICの勉強に力を入れました。また、オープンキャンパスなどで研究室を繰り返し訪問し、大学院生活や入試情報、就職状況など、様々な情報を集めながら顔を覚えてもらいました。念入りに準備したお

かげで入試にも自信を持って臨むことができました。

最後に、大学院進学にあたって特に大切だと思ったことを2つ挙げます。まずは興味を持った研究室があれば、実際に自分で足を運んでその研究室の方々の生の声を聴くということです。インターネットで調べた情報だけでは全く足りません。自分がその場所でやっていけそうかどうかを確認することはかなり重要です。次に、早め早めに準備するという事です。どこに行くかによって準備すべき内容も変わってきますが、今はどこに行くにしてもTOEICのスコアが必須になってきています。例え進学先がまだ定まっていなくても、ちょっとずつでも日頃からできる努力をすれば、後が楽になりますよ。

奈良先端科学技術大学院大学

# 環境建設工学専攻

## 就職・進学状況 早め早めの対策を！



環境建設工学専攻幹事  
土木建築工学科  
助教 西尾 幸一郎

2011年度環境建設工学専攻の就職・進学状況は、修了予定者のうち、民間就職3名、国立大学大学院進学4名、地方公務員6名でした。大学の就職内定率が7割弱といわれる厳しい情勢の中で、本校の専攻科生は例年通り高い就職内定率を保っています。ただし、次年度以降も油断は禁物です。専攻科生の就職活動を取り巻く状況は、益々厳しくなっていくことが予想されますので、学生は早い段階に希望進路を定め、しっかりと対策を立てる必要があります。

大学院進学では、有名な国公立大学の先生方が大学院説明会に本校まで来てくださるなど、専攻科生の評価は相変わらず高いのですが、受験条件として

TOEICで500点以上のスコアが必要というように、基礎学力がなければ合格できない制度に変わってきています。今後、進学希望者は、専攻科に入学してからすぐに対策を立てておかないと志望校に合格することは難しくなるでしょう。

民間就職に関しては、数年前と比べて求人数は減少していますが、それでも民間就職希望者に対して求人倍率は10倍以上にもなります。本校に求人を出していただいている企業の中には、優良企業も多くあります。1年次の長期インターンシップや企業説明会などの機会を活用してじっくりと企業勉強をし、企業規模の大小のみにとらわれることなく、自分の将来設計や価値観にあった企業をみつけてもらいたいものです。

公務員就職に関しては、二次試験の面接でつまずく学生もいます。筆記試験対策はもちろんですが、本校のキャリア教育支援室でおこなわれている就職支援講座は必ず受講してください。

**就職** ダイダン、安成工務店、洋林建設、下関市、広島市（4人）、山口県

**進学** 筑波大学大学院、東京工業大学大学院（3名）

## 就職・進学試験体験記

### ●体験記⑨

### 優柔不断な進路選択の末

環境建設工学専攻2年 西山 翔太郎



私は、本科の時点では大学編入の意思もあったものの、一歩踏み出すことが出来ず地元に残り、専攻科に進学しました。そんな私は「今度こそ一歩踏み出して新しい環境で勉強しよう」という決心のもと、大学院進学を視野に入れて

豊橋技術科学大学にインターンシップに行きました。しかし、実際にインターンシップに行ってみると、大学での生活は専攻科の延長線上という感じで、新しい環境を求めていた私は少し進路に悩み始めました。そんな時、インターンシップ先の先生が私に「就職することも進学することもあまり変わらない。お金をもらって勉強するか、払って勉強するかの違いで、そしてその勉強に責任が伴うかどうかの違いだよ。」と言われました。その言葉を聞いた私は、就職してから勉強することが自分にとって本当に必要な勉強なのではないかと思う様になり、進学ではなく就職方面にすることにしました。こうして方向転換したために、結

果的には他の人より回り道をしてしまった私ですが、なんとか就職の内定をもらうことができ、この春から社会人として働き始めます。

こんな優柔不断な私だからこそ、進学と就職で迷っている優柔不断な後輩たちの道標の一つとなれるように、本科の時に踏み出せなかった一歩を今踏み出したいと思います。

安成工務店

# 卒業生だより

## 卒業後の10年間

機械電気工学科 第24期卒  
西日本旅客鉄道株式会社  
津賀 洋希



私は平成14年に機械電気工学科を卒業しました。就職先を決める際、当時私は警察官に憧れていたのですが、試験時期が遅くリスクが高いため、企業に就職する道を選びました。それから早いもので、10年が経とうとしています。私の仕事について紹介します。

徳山高専を卒業後、JR西日本に入社しました。お客様に安全で快適な輸送を提供することが、我々の使命です。入社後、博多総合車両所で新幹線の全般検査を担当しました。台車やパンタグラフ、制御機器などほぼ全ての機器を取り外し、詳細に検査を行いました。

次に運転士を経験しました。多くのお客様の命をお預かりしている責任を胸に、山陽新幹線（新大阪～博多）に乗務しました。安全で正確に運転するため、勾配や車両の特性などの知識を高めるとともに、様々な場面において安全最優先に判断し行動できるよう、日頃から技術力向上にも励みました。また、運転士として乗り心地のよいブレーキ操作にこだわりを持ちながら、省エネ運転にも取り組みました。

当時0系から700系まで様々な編成がありましたが、私は最も操縦技術力が表れやすい0系が一番好きでした。1964年から2008年まで、長きに亘り活躍した0系の安全に対する思想や技術は、現在の最新鋭の新幹線にも受け継がれています。0系は初代にして完成された名車と言えます。

その後、指令で運行管理を経験しました。車両

に不具合が生じた場合の乗務員への指示や、ダイヤ乱れ時の車両や乗務員の手配が主な業務でした。

現在は新幹線の輸送計画や運行管理のシステム開発を行っています。2011年3月の九州新幹線全線開業に向けたシステム開発をはじめ、2015年の北陸新幹線の金沢延伸に向けたシステム開発に取り組んでいます。

私はこのように様々な職種を経験してきましたが、どれも魅力的でやりがいのあるものでした。また、1本の列車を走らせるためにも、多くの社員が連携し、安全を支えていることを改めて感じました。他の職種への転勤は、再び一から学ぶことも多く大変ですが、今では多くの人との繋がりや、経験が私の強みになっていると感じています。

高専時代を振り返ると、私は陸上部に所属し、走り高跳びに励んでいました。また、寮生活を通じて友達との絆も深め、大変有意義な5年間でした。私としては、高専時代に学んだ知識が直接的に役立つことは少ないと感じていますが、大切なことは課題解決に向けたプロセスや、努力するという経験そのものだと考えています。

最後に在校生の皆さん、青春時代を共に過ごす仲間は大切にしてください。今後様々な場所で活躍されると思いますが、きっとかけがえのない財産となるでしょう。また、学生のときにしかできないことをたくさん経験し、高専生活を楽しんでくださいね。



全線開業ですます近くなった九州へ、お出かけされてみてはいかがでしょうか・・・新幹線で。

# 卒業生だより

## 震災後の仙台市より

情報電子工学科 第22期卒

東北大学

大学院工学研究科 助教 宮本 浩一郎

私は2000年3月に高専を卒業し、東北大学（宮城県仙台市）に編入学しました。編入してから博士課程までは、赤外分光という方法で生体分子を調べる研究に携わりました。博士号取得後は助教として、「化学イメージセンサ」というイオンを可視化するデバイスの研究に従事しています。

山口から見れば北の果て仙台で、気がつけば12年が過ぎようとしています。近況と言われれば、地震のことを書かないわけにはいきません。昨年の3月11日、大学の研究室にいた私は、ふと廊下のスピーカーから流れるアラーム音に気がつきました。建物に設置されたばかりの緊急地震速報？慌てて学生とスタッフに机の下へ入れ！と怒鳴り、直後から始まった震度6以上の激しい揺れは、2分以上続いたでしょうか。その後、私の主観では、雪の中を徒歩で帰宅したこと、数週間に渡る電気・ガス・水道・ガソリンと食料品（雪の中2時間以上スーパーに並びました）の断絶、放射線の不安が思い起こされます。さらに数ヶ月間は、被災した研究室の引っ越しと立て直し活動が続きました。東北大学の復旧は、今では順調に進んでおり、研究・教育の両面で元通りになりつつあります。振り返れば大変な半年ではありましたが、本当の被災地である県内沿岸部に比べれば「ふがえかった」としか言いようがありません。

私個人としては「運が良かった」と感謝するところは多いのですが、身の回りの被害の少なさは

決して運だけでは無く、日頃の心がけと言えたでしょう。定期的に学内の巡視が行われ、実験装置や本棚の固定を徹底していましたし、一般家庭でも幾らかは非常食の備蓄があったようです。山口では地震が少ないですが、東海・東南海・南海で巨大連動地震の危険も指摘されるようになりました。他国のことのように思わず、ご家庭では大型家具の耐震固定、飲料水1ケースと少しの食料備蓄くらいは強くおすすめ致します。

さて、大学で教員をしている身からすると、現在の高専は地域の技術人材の輩出だけではなく、優秀な編入学生の輩出という側面も実感しています。高専からの編入生は、目的意識と能力が際立っており研究室では大変喜ばれます。（一方で、研究を進める上では、文章力・英語力・基礎物理などの座学で若干努力が求められるようです。）もし、大学進学を考えている方がこれを読んでおられるなら、しっかりと試験勉強をして、自分の力の及ぶ限りチャレンジをして欲しいと思います。就職とはひと味違う世界が広がっているはずですよ。

最後に私が進学を決めた高専5年生の頃を振り返ると、卒研で山田健仁先生のお世話になったことは大きな影響がありました。また私の卒研仲間や同級生には、プログラミングから数学から文学まで極端な才能の持ち主が多く、彼らと過ごせた日々を今でも懐かしく思い出します。あれほど技術と知識が増えた1年も、毎日が楽しく、揺れ動いていた1年も、もう無いような気がします。あの頃を振り返って感謝しつつ、皆様のご活躍とご多幸をお祈り致します。



震災で一番被害の大きかった研究棟の様子



復旧・再稼働した研究室にて

# 卒業生だより

## 就職してから

～遠い地でも仕事が頑張れる理由～

土木建築工学科 第26期卒  
環境建設工学専攻 第10期修了  
前田道路株式会社  
山本 佳奈子

私は、平成16年に本科を卒業した後、専攻科に進学し、平成18年に前田道路株式会社に入社しました。

はじめに会社でどのような仕事をしてきたのか、お話をさせていただきます。同期52人のうち女性は自分一人というとても寂しい環境の中、一ヶ月の新入社員研修を終え、東京支店に配属されました。主にCADなど内業が多く得意なパソコン作業が活かされましたが、ときどき出向いた工事現場は分からないことだらけで不安で大変でした。

2年目の夏には本社に異動になり、現場支援や新事業の部署に配属されました。新しく覚えたIllustratorやPhotoshopは、個人的にもグラフィックデザインをやるほど興味が持てました。自分が作った営業チラシや工場パンフレットなどを活用してもらえて、やりがいのある仕事でした。

4年目の終わりには子会社のコンサルへ出向となり、現在も続けています。ここでは主に道路の調査・診断をしており、路面性状調査では計測車の中に乗ってオペレーターをしたり、道路のひび割れ解析をしたりしています。完成したデータは道路の維持管理に役立てられます。



私の会社は徳山高専の卒業生が多く、男性は全国各地の営業所で工事の現場監督などの仕事をし

ていますが、女性の先輩・後輩もたくさん活躍しています。私と同じ仕事をしている人はおらず、技術研究所や合材工場や支店など、その人の特性に合わせて配属されています。

土木業界は正直なところ、「男社会」という印象が強いですが、私はその中でも女性が活躍できる仕事はたくさんあると思っています。自分の得意分野を理解して、うまく扱ってくれる上司に巡りあえたときは万歳です。自分の得意分野をアピールすることは、やりがいのある仕事をやらせてもらう上でとても大事です。

せっかくの卒業生だよりなので、在校生にメッセージを送らせていただきたいと思います。進学や就職で人生の分岐点に立った時、周りの人に相談することはもちろん大切ですが、あくまでも参考意見で、最終的には自分で決断してください。当たり前のことかもしれませんが、周りの雰囲気には流されないことです。自分で決めた道だと思えば多少の困難があったとしても挫折しないですし、前を向いていれば後悔はありません。

私も就職や進学で迷ったり、突然とんでもない環境に吹っ飛ばされたりした経験がありますが、自分で決めた人生だから後悔はひとつもありません。悲鳴をあげたくなるような環境になっても、あとで「そういえば、あんなこともあったなあ。」と微笑ましく思えるときがくるでしょう…。

最後に、徳山高専を選んで本当によかった！と思っています。本科を卒業して約8年が経ちますが、在学中に出会った仲間は、いまでも何でも話せる最高の仲間です。いま私は徳山から遠く離れた茨城県で仕事をしていますが、帰省して高専の友達に会うと本当にホッとできて、リフレッシュして「また仕事頑張ろう」と思えます。高専時代の仲間は一生大切にして、今後も仕事などに精進していきたいと思っています。



CA26期同窓会 (2011年5月)

## 徳山高専「高城会」『卒業生からのメッセージ』

本校が開校してまもなく40周年を迎えます。1期生は既に50歳を越えました。久しぶりに集まると、一瞬名前が出てこなくて戸惑ったりしますが、すぐに、まるでタイムマシンに乗ったように学生時代に戻るから不思議です。今回は、そんなOB・OGから在校生の皆さんへメッセージを送って頂きました。

担当：田村 隆弘（CA1期、徳山高専土木建築工学科）  
奥本 幸（IE1期、徳山高専情報電子工学科）

### あれから20年

#### 情報電子工学科13期生

（平成3年卒業）

2011年の暮れ、情報電子工学科13期卒業生の同窓会が開かれました。彼らは、平成3年3月に卒業し、20年が過ぎました。皆それぞれの地でがんばっています。体型が少しふつくらした人もいますが、面差しは10代の在学当時のままです。同窓会に集まった皆さんから、在学生へ「一言メッセージ」を寄せていただきました。



同窓会に集まった皆さんから、在学生へ「一言メッセージ」を寄せていただきました。

#### 少し高専に慣れた1年生へ

- ・残り4年と少し、時間があるようですすぐ終わってしまうので、しっかり勉強や運動に励んでください。（吉永 壮）
- ・5年間は人生で一番楽しい時間だよ。（小方慎一）

#### 中だるみの2・3年生へ

- ・没頭できるものを見つけて、限界まで取り組んでみるような、そんな熱い日々を送れるとよいですね。（谷野英明）
- ・目的を見つけれなくてイライラしているかもしれませんが、4年になったら世界が違ってきますので、がんばってください。（河島 隆）

#### これから就職活動をする4年生へ

- ・自分の相場（価値）を見極めよう！人間、感情じゃないと動かない！！（林 栄治）
- ・長府製作所に入りたい方は、連絡ください。電子回路設計、ソフトウェア設計技術者を求めています。（木村 裕）
- ・一回しかない人生なので学生生活満喫してください。就職も10年後に後悔しないように十分考えて決めてください。（梶山正幸）
- ・大きい所がいいと思うよ。（井上博樹）

#### もうすぐ卒業する5年生へ

- ・「自分の得意なことが何か」見つけなくとも、自然にそれを生かせるような正直な行動をお勧めします。（加茂孝雄）

#### 高専の学生へ

- ・貴重な学生時代！いろいろな体験をしてください。それが必ず10年、20年後に役立ちますよ！今SEで苦労しています。（藤田正和）
- ・電車の機器のシステム設計をしています。職場でも高専卒業生、活躍していますよ！（広重健司）
- ・10年後、20年後に自分がエンジニアであることに誇りを持てるように、今、しっかり勉強しましょう。（弘田 勉）
- ・今のうちに、しっかりと遊んでおいて下さい。“遊び方”を知っていることは、大きな強みですよ。（濱田 晃）
- ・上を見ればきりがありませんが、上を目指しましょう。（金井敏秀）
- ・ドコモ、ソフトバンク、ケイタイの仕事をやっています。（向井 保）

#### 先生へ

- ・在学中は大変お世話になりました。銀行を退職後、公認会計士になって、会計・財務の世界でがんばっています。（吉山浩明）

## ■君も「世界で通用する実践的技術者」を目指そう！

山田利行（CA 1期、三井造船株式会社）



私は、土木建築工学科の第1期生として徳山高専を卒業し大学編入を経て三井造船（株）に入社し30年を過ごしました。その間、ほとんど海外プラント建設工事に従事し、海外出張期間は長短期の滞在を含め合計で9年間を超えました。滞在が長い順にサウジアラビア、タイ、アメリカ、バングラデシュ、エジプト、イラン、UAE等を含め合計20カ国以上の国々への出張を経験しました。

入社以来担当している業務は、高専で専門技術の基礎を学んだ土木、建築関係の知識を生かしプラント建設の見積、設計、工事管理を一貫して行っています。土地造成に始まり、地盤調査、道路・舗装、排水、杭工事、コンクリート基礎、鉄骨構造物、電気室や倉庫等の各種建屋、建屋設備工事と担当範囲が非常に広範囲となっています。

プラント建設工事は国内外を問わず徳山高専の多くの卒業生が何らかの形で関わっていると思いますので、今回は、学生の皆さんに自身の経験を踏まえて以下の3項目のメッセージを送りたいと思います。

まず、一つ目はコミュニケーション能力の大切さです。学生、社会人に限らず人と関わらずに社会生活は出来ません。特に社会人となると、会社では同僚、上司、部下、他部署の社員、会社外では客先あるいは下請会社と非常に多くの人と一緒に協力して一つのプロジェクトを完成させていきます。その際に、自分の意見をきちんと相手に伝えること、相手の意思を正確に理解できることが大事です。当たり前の事だと思われるかもしれませんが、これは結構難しいので、学生時代の普段の生活から意識して行動してもらえたらと思います。日本人同士でも利害関係があり立場の違う者は意見が違うし、また文化や価値観の違う外国人と英語でコミュニケーションした際は過去に行き違いを多数経験しました。最終的には言葉を越えた人間同士の信頼関係を築くことが理想です。今後は、日本にいても英語の能力は必要になるので、学生時代にTOEIC試験等とおして英語の基礎はぜひ身に付けてください。

二つ目は自分の興味のある趣味・特技を何か一つ持つことです。これは二つの側面から捉えることができます。一つは自分を磨くということです。自分の趣味の知識や能力の向上を図り、自己成長を促すことで、気分転換を図ることができ、メンタル面、身体面ともにリフレッシュ出来ます。もう一つの側面はその知識を生かした他人との幅広い人脈が構築でき、円滑なコミュニケーションの一助になります。わたしは学生時代にはサッカー部でしたが、最近はおっぱら観戦専門で、休日は時間さえ許せば必ずスタジアムまで観戦に行き楽しんでます。またサッカー検定試験に挑戦し知識を深めており、サッカーをとおした知識が外国人とのコミュニケーションにおいて公私ともに随分と役立ちました。

最後は専門技術の基礎の習得を図るということです。毎日の授業や専門書をとおして専門技術の基礎力を磨くことが必ず将来役立ちます。若い時は積極的に廻りの人に疑問点を聞いて一つ一つ吸収し納得するまで掘り下げることが大事です。執着心、探究心を持って勉強に励んでもらいたいと思います。社会人になってから、学生時代の専門とは違う分野に進んだとしても、ものの考え方の基本は同じです。海外では、特に途上国の人は自国語での技術書が少なく、英語の技術書で勉強しているので、英語で身につけた専門用語がスラスラ出て自信を持って話をします。きちんとした技術力を示すことでお互いに信頼関係が築け、仕事もスムーズにいきます。

これからはグローバルな視点にたったエンジニアが活躍する時代になるとと思いますので、その礎を是非、学生時代に築いてもらいたいと思います。



イランでのプラント工事、土地造成状況

## ■後輩の皆さまへ 【(株)竹中工務店 OB会からのメッセージです】

鈴木 悟 (CA3期、株式会社竹中工務店)



私はCA3期の鈴木です。昨年末(11月末)に学校より会社へ依頼を受け 安全工学とやらの講義を母校で行いました。私は1981年に卒業して以来、久しぶりの登校。守衛所は、昔のままだったようで懐かしさを憶えましたが、校舎は配置が変わっており少し不思議な気分でした。図書館の陶版(瀬戸内海の風景だったと思いますが)も何処へ?時は約30年経っています。今回、高専だよりの原稿依頼を受け当社における母校の卒業生の数を調べました。実は何名いるのか知らなかったのです。なんと19名。私は、広島支店に勤務しており、広島では7名、東京で1名、大阪で1名は、交流があったので知っていましたが、倍の卒業生がおりびっくりです。

さて、後輩の皆さんへの一言を依頼し、特に温かい後輩思いの心をお持ちの数名からお言葉を頂きました。以下、年功序列にて紹介させていただきます。

### 重本保則さん (CA5期、広島支店 技術Gリーダー) より



「建築主の想いをかたちにするという仕事に携わり、建築主・設計事務所をはじめ施工する協力会社と共有し、ものづくりの感動を体感しています。」

### 青木正浩さん (CA8期、福山営業所 保全担当課長代理) より



「チャンスはきっとある。今を頑張る!!」



青木さんの作品 福山の中国電力メガソーラー

### 藤田邦裕さん (CA9期、大阪本店 作業所長) より



「我々人間は本能として育てる喜び、出来上がっていく喜びがあります。いろいろな仕事がある中で、土木や建築の仕事は、無から有を作り出してゆく。つまり何も無いところから建物が出来上がっていく喜びを感じることができる素晴らしい仕事です。土木建築以外の道に進む人もおられると思いますが、とにかく自分のために今、自分はどうしたいのかを意識して何事にもポジティブに取り組んでください。そして一生の友である同級生と、あれやこれやと意見をぶつけたり喧嘩をしたり慰めあったりなど青春を楽しんでください。人生一度きり。やらなくて後悔するなら、当たって砕けた方が数倍楽しく生きられますよ。がんばってください。」



藤田さんの建設されている関西国際空港LCC旅客ターミナルビルのパースです

### 新村知史さん (CA11期、広島支店調達G課長) より

社会にでて20年。学生の時にやって良かったこと。やらずに後悔していること。

- 1.必死に打ち込んだ部活動。(恩師、同輩、先輩、後輩との今も続く継続的な交流)
- 2.時間はあったが、金がなかった。借金してでも海外とかいろいろ見て回りたいかった。(価値観の創造)

3. 卒業生や社会人等の先人との繋がりを持ち経験談等聴いてみることも必要だった。(視野の拡大)  
高専卒業生は素直でいい！しかし、常に自分を磨き輝かせて欲しい。

### 田村栄二さん（CA12期、岡山営業所 営業主任）より



技術者としての技術力を生かして営業活動中。

「自分が好む、好まざるに係らずいろいろな業務があり、さまざまな場面に会う。その時のために、多方面へのアンテナを張って多くの知識を吸収するようにしてください。」

### 濱田幸弘さん（CA19期、大阪本店技術2G計画担当主任）より

人生や仕事においてSkill（技量）、Will（志）、Passion（情熱、熱意）の3つを大事にしています。

1. Skill・・・勉強して身につけるもの
2. Will・・・考え抜いて高めていくものですが
3. Passion・・・これが難しい。いくら勉強しても高まりません。情熱には大きなパワーがあり、どんな困難も乗り越えられます。更に、熱意をもった人と係ることでPassionを高めることができます。

情熱や熱意は伝染します。

自らが熱源となりPassionにあふれた人生、仕事で後悔をしない道を歩んでください。

### 田中美里さん（CA31期、広島支店 見積G 見積担当）より



1. 「一期一会」を大切に！

高専で出会った仲間は一生モノです。

2. 「人生の引出し」をたくさん作ってください！

若くて時間がある間に、いろいろな思い出、体験、冒険、失敗、人の輪を作って大切に保管してください。大人になってから困った時や新しい土地に行く時、会話のネタ等でその「引出し」ひとつひとつがきつと役に立つはずですよ。

最後に、CA3期 鈴木からのひとことです。

はっきりした目標もなく社会へ出まして30年。他の同僚よりは劣った人生かもしれませんが、今の自分を支えている根幹は「人」です。字の通り支えあってバランスが保たれています。今、そしてこれから出会う人全てを大切にしてください。



広島駅北口の再開発ビル（3棟を建設しました）

## 高城会の皆様へ

### 重要なお知らせです！

### 『同窓会名簿の発行』について

高城会では、個人情報保護の観点から平成16年度を最後に同窓会名簿の発行を休止していましたが、この度（平成23年10月30日）の理事会で、事務局でのデータ管理の限界や他高専等の名簿発行状況等、様々な観点から検討し、最終的に「小野高速印刷株式会社」への委託による名簿の発行を決定致しました。

つきましては、今回の高専だよりと同封の調査用紙にご回答の上、ご返信頂けますようお願い致します。

また、今後、卒業生並びに修了生については「小野高速印刷株式会社」より、徳山高専同窓会「高城会」の名簿印刷のための調査連絡が電話によって行われることがあります。何とぞご協力頂けますようお願い致します。

詳細については、同封の別紙をご参照ください。

高城会会長

高橋一登（ME3、株式会社トクヤマ）

高城会理事長

田村隆弘（CA1、徳山高専）

## 『高城会』の近況報告

高城会事務局

### ■原稿募集！高城会ホームページ <http://www.takajokai.jp/>

各地域での会員の連携を深めることや同窓会ホームページを充実させることを目的として、クラス会等の原稿を募集しています。執筆者には謝金を用意します。詳しくは高城会HPをご確認ください。

#### ■最近のトピックス「つながる・ひろがる」

No.5 高専先生と(株)トクヤマMEのOB懇親会(H24.1)

No.4 山口県庁高城会懇親会(H23.11)

No.3 原田幸雄先生の退職記念会 by 卓球部(H23.8)

No.2 下関市役所職域支部懇親会(H23.2)

### ■高城会の震災被災者支援活動

この度の東日本大震災で被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。

高城会では、本会会員で被災された方の支援について検討しています。該当される方におかれましては、ご連絡・ご相談ください。また、被災地域にお住まいの卒業生の安否確認、被災状況確認を行っております。被災された卒業生の情報をお持ちの方は、ご連絡ください。御協力をお願いいたします。

連絡先 : admin@takajokai.jp

#### ■被災地への支援

被災地へ家電や物資などを送る活動を続けている周南市のチームクリエイション代表 松原香織さんに、支援金をお渡ししました。寄付金をお渡しした平成23年11月3日は、事務所に集まった支援物資をボランティアの皆さんで梱包作業を行っておられました。受けつけた家電の通電確認をしたり、ピカピカに掃除をしたりされていました。ボランティアスタッフの中には、本校卒業生の姿もありました。

#### ■チームクリエイション松原さんからの便り

このたび、徳山高専同窓会「高城会」様より、東日本大震災への支援金20万円をお預かり致しました。「スマイルアクションプロジェクト」は、周南市城ヶ丘を拠点とし、東日本大震災の支援活動を継続して行っております。

「高城会」様よりお預かりした支援金は、岩手県宮古市高浜の皆さんへ石油ストーブやコタツなどの冬物家電や毛布・布団などをお届けする資金と、南三陸町の漁業再建へ向けて奮闘されている漁師さんたちの漁具等の倉庫建設に使わせて頂きました。

宮古市も南三陸町も津波の被害がとても大きかった地域です。家は流され、町がなくなり、仕事も失い、そして家族をも失った方たちにとって、遠く山口からの支援は、「とても心強く有難い」と話されていました。これからも、東北の皆さんが笑顔で暮らせる日まで、現地で必要とされていることに耳を傾けながら支援を続けていきたいと思っております。ありがとうございました。どうぞ引き続きのご支援をよろしくお願い致します。

スマイルアクションプロジェクト 代表 松原香織

山口県周南市城ヶ丘2-1-9 TEL : 0834-34-8872

メール : info@1014.jp

<http://www.pebble-style.jp/smileaction/>



高橋会長が目録を手渡しました



宮古市へストーブをお届け



トラックいっぱいの支援物資



南三陸町へ冬物家電をお届け

## 高専教員の「<sup>いちぶん</sup>一分」と東日本大震災復興支援

土木建築工学科  
教授 大成 博文



### 高専教員の「一分」

深紅の色鮮やかなデイゴの花咲く頃に、沖縄の琉球大学から本校に赴任して36年が経過しました。振り返れば、月日の経つのは速く、この春で定年を迎えることになりました。この間、みなさまには、たくさんの支援とご協力をいただき、お世話になりましたことを深く感謝申し上げます。

さて、私が赴任した1976年の徳山高専は創立3年目でした。専門棟ができたばかりで道はぬかるんでいました。実験室も空っぽで、教育も研究も、すべてが「新しく始まる」という息吹に満ち溢れていました。

最初に取り組んだのが、水理実験室と衛生工学実験室づくりでした。これらは、高専における教育と研究の水準と将来を決めるものですから、いろいろ考え、京都大学防災研究所の水理実験室を参考にしました。後に、その中の一つである「開水路」が有名になり、学会のハンドブックにも掲載されることになりました。この水路は約30年経過しても立派なままで、特別の、いわば「愛用の水路」となりました。この水路が完成して2年目、2期生のH君と夜中に実験をしている時でした。「わあー、先生、これ何ですか？」という彼の驚きの声に引きずられて、思わず、その水路の中を覗き込みました。そこには、彼が流しこんだコンデンスミルクで描かれた奇妙奇天烈、摩訶不思議な模様が出現していました。2人して、この魅力的な模様を朝まで眺め続けました。その後、この現象は、乱流における「秩序構造」という当時の世界最先端の現象究明に関係しており、この追求が、私を始め、佐賀孝徳、渡辺勝利の両先生の学位論文の取得に結びつくことになりました。

H君と共に行った実験が3人の学位論文のテーマになるまでに発展していったのですから、足元には「泉」があり、そこを掘り続けることがいかに大切であるかをよく理解することになり、自前の教育研

究を行うことが水理研究室の基本スタイルとなっていました。しかし、当時の学会では、高専からの発表は皆無に近く、私たちの成果もなかなか認知されませんでした。

そこで、高専から外に向かって積極的な交流を行うことにしました。

①大学での定期的な研究会の開催（2大学1高専で構成、毎週13時～21時過ぎまで、15年継続）

②西日本地区の大学高専の先生方による研究会の開催（年4回、私は事務局長を10年務めた）

③土木学会以外の他の分野の学会への積極的参加  
これらはいろいろと大変でしたが、そのなかで「高専だからできない」、「高専だから、この程度でよい」などと思うことが言い訳に過ぎないことを理解し、同時に「高専の中だけに閉じこもっては何もできない」ことにも気付きました。

しかし、学会や研究会活動において進展はあったものの、社会的には、いわば「世間知らず」の状態でした。もともと高専は、実践的な技術を教え、研究するところですから、「社会貢献」を行うことも重要なのですが、これが未熟な段階に留まっていました。その「社会的目覚め」の契機となったのが地元企業からの技術開発委員会への参加依頼でした。ここでは、下水処理槽内のエアレーション法が問題となり、その装置を開発することになりました。

この開発が後のマイクロバブル発生装置の発明に結びついていくのですが、当時は、どうすれば水の中で極小の泡を作ることができるかを夜通し考え、実験を繰り返すという日々を過ごしていました。

こうして足かけ15年の歳月を経て、1995年に、現在のマイクロバブル発生装置が完成しました。その過程は、偶然の連続であり、しかも小さな積み重ねによって一步一步の技術的改良が進む中で、その装置の完成に近づいていきました。当時、化学工学の分野を中心に、何とか気泡を小さくしたいという試みが盛んに行われていたそうですが、私は、そんなことも知らず、ただ黙々と挑戦していたのでした。



写真-1 大津波で破壊された大船渡市の中心市街地（2011年8月19日、筆者撮影）

装置は完成したものの、その利用においては、足踏み状態がしばらく続きました。それは、気体の高濃度溶解がある程度可能になったものの、それが完璧ではなかったこと、それから、マイクロバブルの発生量が少なかったことなどに起因していました。

ところが、1998年に広島湾でカキ養殖が新種のプランクトンによって45億円もの被害を受けた翌年に、「お前の技術で何とかせよ！」と大学時代の友人から依頼されたことがありました。これに現場の漁師の依頼が加わり、カキ用のマイクロバブル発生装置を新たに開発し、赤潮に苦しんでいた現場に適用することになりました。

そうしたら、カキにマイクロバブルを与えると大きく口を開けているではないですか。「カキが反応している、これは何かが起きている！」ことを直観しました。これが、マイクロバブルの生理活性作用を実感した瞬間であり、それが優れた機能性を有していたことが、その後のカキの急成長によっても確かめられました。こうして、それまでのカキ養殖期間の半減（通し替え後5カ月）、1年物のカキ（若ガキ）の復活、夏ガキ（真ガキ）の市場初の出荷という新たな養殖法が実践的に開発されることになり、これらがNHKテレビ「ニュース7」で3回連続放映されました。

その後、北海道噴火湾におけるホタテ養殖、三重県英虞湾における真珠養殖へと取り組みが拡大し、いずれも大量斃死という最悪の事態に窮地に陥っていた漁師のみなさんをマイクロバブル技術

で救うことができました。これらでは、魚場が衰退し、大量斃死が頻繁に起こる中で、それこそ「待ったなし」の状態という深刻な事態をどう克服するかが問われ、新技術の成果が実践的に試されたのでした。

同時に、この技術開発の成果を高専の現場や地域社会にどう生かすかも試されることになりました。本校の教育目標は、「世界に通用する実践力のある開発型技術者を目指す人材の育成」にあり、初代「テクノ・リフレッシュ教育センター長」に就任したことも影響して、この目標を実現することをめざしました。とくに、拙著『マイクロバブルのすべて』を発行したころからでしょうか、授業の合間にマイクロバブル技術の最先端のトピックスを紹介すると、学生のみなさんが喜んで聞くようになりました。

また、マイクロバブル技術の導入によって、広島市宮島の「いわむらもみじ屋」のもみじ饅頭がよく売れ始めたこと（日曜祭日には1日1万個以上が売れる）、岩国市の村重酒造がベルギーの国際食品コンテスト（モンドセレクション）における最高金賞を3年連続で受賞した（日本酒『錦』）ことも学生たちが大いに喜んだことでした。こうして、マイクロバブル技術はさまざまに広がり始め、健康医療、食糧バイオ、そして環境エネルギーという広範でかつ重要な基幹分野で着実に普及し、「徳山高専から生まれた技術」としての認知がなされるという重要な事態が進行しています。



写真-2 マイクロバブル育ちのカキ (2011年11月15日)

### 東日本大震災復興支援

2011年3月11日、あの未曾有の東日本大震災と津波が起きました。信じがたい光景が次々にテレビや新聞を通じて目の前に迫ってきました。この大災禍にどう立ち向かうかを考えているうちに、科学技術振興機構「東日本大震災支援プログラム」の公募があることを知り、それに申請して124件中の6件の採択に入ることができました。

交通が寸断され、電話も通じない、住むところもなく、電気も来ていない、さらには、船や筏も流されているという状態からの復興支援には大変な困難が待ち受けていました。しかし、それをマイクロバブルの力で何とかしよう、復興させようという試みですから全力を注ぐことになりました。採択されたテーマは「大型マイクロバブル発生装置による閉鎖海域の水質浄化と水産養殖の復興」であり、海の浄化と水産養殖の改善はマイクロバブルが得意とすることでした。そこで、現地大船渡湾にマイクロバブル発生装置104機という（従来の配備と比較して350倍程度）多数の装置を配備することを決め、文字通り国内外初の大規模実験を行うことにしました。

幸いにも、この直観が効を奏したのでしょうか、カキがすくすくと成長し始め、真っ白でふくよかな、そして甘くて美味しいカキ（「バージンオイスター（無放卵カキ）」と呼ばれている）を誕生

させることができました（夏場に産卵はするものの、マイクロバブルによって成長を優先させるために、その産卵部分が身に変わり、放卵しないことで大きく成長したカキになる）。

結果的に、このカキの出現によって養殖期間の大幅短縮（その分の生産額の増大と同じ）と新しいカキブランドの創出が可能となり、それが地元漁師のみなさんに役立ち、小さくない希望を示すことになりました。

こうして、私の高専生活36年の前半は乱流研究に勤しみ、後半はマイクロバブルと共に過ごすことになり、おもしろくてゆかいな日々を過ごすことができました。

同時に、日本高専学会（会長）、土木学会教育企画・人材育成委員会高等専門教育小委員会（小委員長）等を通じて高専教育に関する研究に取り組んだことも大変有意義で、高専教員としての「一分」となりました。

高専は今年で50周年を迎えます。50年の試練に耐えたことは重要であり、そこに優れた基盤形成があったことを意味します。それは、第1に学生と教員の優秀性にあり、第2に高専の時代対応性にありました。この形成は次の50年にも有効であり、それを土台にしてますます飛躍する可能性を準備していくことになるでしょう。その期待を込めて、次の言葉を贈ります。

「鋭く、大きな直観に基づく『知』を力にして」

# 新 任 者 紹 介



校長

いのうえ なおき  
井上 直樹

## ●ご出身はどちらですか？

島根県松江市です。隣の県ですが、東側に寄っているのご存じない方も多いと思います。

もともと、松江藩18万6千石の城下町ですので、町の雰囲気は徳山に似ていますが、若干大きく、山口市を想像していただいた方が近いです。私が育った頃は、工場らしい工場はなく、最大の就職先は県庁で、観光（城には天守閣もあります。）が収入源という点も山口市と似ていました。

ただ、最近は合併で、玉造温泉のある玉湯町、島根原発のある鹿島町、三菱農機の本社のある東出雲町といったところを吸収しましたので、産業面での活力は上がっていると思います。

## ●本校に来られる前はどちらに？

直前は、東京大学医科学研究所で研究協力担当の教授をしていました。

もともとは、東京大学大学院工学系研究科を出た応用化学屋で、卒業時第2次オイルショックで化学企業の採用がなかったので国家公務員になりました。最初は科学技術庁（現文部科学省）に入り、（原子力を除く）科学技術研究開発の調整、つまりどういう研究開発にどれくらい予算を配分するかというようなことをやっていました。また、原子力については安全規制行政に携わりましたが、平野前校長とは違って原子炉には関与しておらず、核燃料施設（ウラン濃縮施設、使用済み燃料再処理施設等）やRI施設（大学や病院で放射性同位元素やX線発生装置を使っているところ）を対象とする規制を担当していました。他省庁に出向して、通産省では鉄鋼業界の技術開発の支援や、工業標準（JIS、ISO等）行政を担当し、また外務省では、在ソ連邦日本国大使館で科学担当書記官を務め

ました。

その他、航空宇宙技術研究所（現宇宙航空研究開発機構）、海洋科学技術センター（現海洋研究開発機構）、理化学研究所、無機材質研究所（現物質・材料研究機構）、日本原子力研究所（現原子力研究開発機構）といった研究機関でマネジメントをやってきました。

## ●徳山高専の印象は？

すばらしい環境の中で、学生がのびのびと育っているという印象です。すばらしい環境は、立地や施設設備と言った物理的な側面もありますし、教職員や周辺市民の方々の理解と協力という側面もあります。そういう環境の中で、校内での勉学だけでなく、様々なスポーツやコンテスト、コンクール等に参加していく積極性は、他校の範になり得るものと思っています。

## ●ご趣味は何ですか？

無芸大食です。若い頃は、囲碁、将棋、コントラクト・ブリッジ、麻雀といったゲーム系を中心に、仕事で必要になるゴルフなど何にでも手を出しましたが、今となっては何も残っていません。空いた時間には、もっぱら本を読むか音楽を聴いています。

## ●今後の抱負をお聞かせください。

学生が受身でなく能動的（自発的）に学ぶ学校を作りたい。先ほど印象で述べたことの裏返しですが、今の本校は環境がよいので、ある意味環境が作り出す流れに乗っていれば、能動的にならなくてもそれなりに育って巣立っていける環境です。それは良いことなのですが、修羅場にあうと弱さが露呈するのでは困ります。人の作った流れに乗る積極性とどまらず、自ら流れを作り、みんなをそれに乗せる能動性と指導力を身につけてほしい。そのためには勉学も大事ですが、学生会活動や部活動等の課外活動の盛んな学校にしていきたい、そして寮の活性化を図っていきたいと思っています。



一般科目 准教授

あらかや とくじ  
荒谷 督司

●ご出身はどちらですか？

京都市です。高校まで京都に住んでいました。実家は滋賀県の比叡山のふもとにあります。

●本校にこられる前はどちらに？

関西にあるいくつかの大学で非常勤講師をしていました。主に解析系（微分積分など）を中心に教えていました。私の専門は代数学なのですが、専門外のことを教えるほうが多かったです。

●徳山高専の印象は？

まじめな学生が多いですね。挨拶がきちんとできる学生が多いことや校舎がいつもきれいなのはとてもいいことだと思います。

●ご趣味は何ですか？

サイクリング、ボウリング、サッカー観戦などです。

●今後の抱負をお聞かせください。

「数学が嫌いだ」という学生を少なくしたいですね。欲を言えば、一人でも多くの学生を数学好きにさせたいです。



一般科目 准教授

かさぎ てるひろ  
笠置 映寛

●ご出身はどちらですか？

大分県です。

●本校にこられる前はどちらに？

温泉で知られる大分県別府市の短大で、13年間、教員をしていました。

●徳山高専の印象は？

礼儀正しく、明るい学生が多いと思います。また、高専の周囲は静かで、景色もよく、落ち着いた印象を持っています。

●ご趣味は何ですか？

旅行です。学生の頃はアジアを中心に行き当たりばったりの旅をしていました。ここ数年は、島の自然や文化に興味があり、沖縄等の離島を巡っています。

●今後の抱負をお聞かせください。

将来に向けて目標を持つ学生一人ひとりの役に立てるように、また徳山高専の発展に寄与できるように努めていきたいと思っています。よろしくお願いします。



# 新 任 者 紹 介



機械電気工学科 教授

いわた ひでたか  
岩本 英久

## ●ご出身はどちらですか？

光市です。高校を卒業するまで、光にいました。

## ●本校にこられる前はどちらに？

呉高専の機械工学科にいました。大学院を卒業してからずっと呉にいます。

## ●徳山高専の印象は？

呉高専の学生と比較して、マナーがとても良いです。また創造力もあり、学生のポテンシャルがとても高いように思います。学園台から見下ろす、周南コンビナートと瀬戸内海の風景が感動的です。

## ●ご趣味は何ですか？

ジョギングなどのダイエット活動です。今年の冬は寒いので、走っていません。たった2週間で2キロも太ってしまいました。早く春が来てほしいと思っています。

## ●今後の抱負をお聞かせください。

平成24年3月までの1年間、人事交流制度でこちらにお世話になっております。不慣れなため、先生方や事務の方々には大変ご迷惑をおかけしておりますが、徳山高専の良いところをしっかりと学びたいと思います。

\*高専間の人事交流で来られました。(H23.4月～H24.3月末)



事務部長

たけだ あつろう  
武田 篤郎

## ●ご出身はどちらですか？

宮崎県の最南端、串間市の出身です。

## ●本校にこられる前はどちらに？

鹿屋体育大学、鹿児島大学、都城高専、宮崎大学、熊本大学の4大学1高専で勤務してきました。

## ●徳山高専の印象は？

周南市街地が一望できる小高い丘の上であり、瀬戸内海の美しい島々を眺めながら、勤務できることに感謝しています。

学生たちも素直できちんと挨拶をしてくれますが、身だしなみの悪い学生が一部見受けられることは残念です。

## ●ご趣味は何ですか？

特段に趣味らしい趣味はありませんが、時々、ゴルフをしています。

## ●今後の抱負をお聞かせください。

教員スタッフを支援する事務方として、教員と連携しながら、徳山高専の発展に貢献したいと思っています。





総務課長

うめだ のりよし  
梅田 則好

●ご出身はどちらですか？

生まれは違いますが、育ちは山口県平生町です。

●本校にこられる前はどちらに？

松江高専の学生課長をしておりました。

●徳山高専の印象は？

明るく静かで温暖なところであり、勉学や部活等に専念するには大変よい環境であると思いました。

●ご趣味は何ですか？

数年前までは職場で草野球をしておりましたが、最近はおっぱらスポーツを観戦することです。

●今後の抱負をお聞かせください。

徳山高専の現状を把握して、一日も早く徳山高専のお役に立てるよう努力していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。



学生課課長補佐、図書係長

てらにし さとむ  
寺西 智

●ご出身はどちらですか？

生まれも育ちも山口市です。途中放浪の時期もありましたが！

●本校にこられる前はどちらに？

山口大学の学長戦略部国際・社会連携課国際連携係からです。

●徳山高専の印象は？

26年ぶりの復帰ですが、校舎も改装され、とてもいい環境になったと思います。

●ご趣味は何ですか？

下手の横好きのゴルフです。コンペの機会を楽しみにしています。

●今後の抱負をお聞かせください。

早く仕事に慣れて、私を育て頂いた徳山高専のお役にたてればと思っております。

\*山口大学から人事交流で来られました。(H23.10月～)



# 新 任 者 紹 介



総務課地域連携推進係

くろかわ かずや  
黒河 和也

## ●ご出身はどちらですか？

小学校まで山口県柳井市でその後、山口県周南市です。

## ●本校にこられる前はどちらに？

大阪の大学に通う大学生でした。

## ●徳山高専の印象は？

中高と野球場を使用したことがあり、野球場やテニスコートなどを含め様々な設備がととのっており大変良い環境だなという印象です。

## ●ご趣味は何ですか？

野球、スポーツ観戦、映画鑑賞、ゲームなどです。最近サッカーも始め、趣味をもっと増やしたいと思っています。

## ●今後の抱負をお聞かせください。

早く仕事に慣れて、徳山高専の役に立てるようになりたいと思っています。

よろしくをお願いします。



総務課施設係

にしみつ  
西光 ちひろ

## ●ご出身はどちらですか？

山口県山口市です。

## ●本校にこられる前はどちらに？

山口大学の施設環境部に勤務していました。

## ●徳山高専の印象は？

山・坂・みどり・げじげじ…。  
高専坂を下りながら見る夜景が好きです。

## ●ご趣味は何ですか？

ストレッチ  
スポーツ  
読書

## ●今後の抱負をお聞かせください。

直接学生のみなさんとやりとりする機会は少ないですが、『徳山高専って整備されていたな、きれいだったな!!』と思われるような仕事をしていきたいです。

また、建築的な知識のみでなく設備的な知識も、仕事をする中でどんどん吸収し、増やしていきたいです。

\*山口大学から人事交流で来られました。(H23.10月～)



## 学生に対する図書館利用に関するアンケートと結果について

インターネットが身近になるとともに、図書館の利用者数は年々減少の傾向にあります。図書館も環境の変化に応じた変革が必要です。

そこで、図書館をもっと有効に利用していただけるように、学生からアンケートをとることにしました。アンケートの主旨は、以下の2つです。

1. 学生が図書館の利用に対して不便を感じているかどうか。
2. 学生が図書館に求めているものや希望は何か。

具体的な希望項目について、学生図書委員会や図書館時間外開館補助員より意見をお聞きし、本科生全員を対象に以下のアンケートを取りました。

1. 図書館の利用について、
  - ( ) 不便を感じる。
  - ( ) 不便を感じない。
  - ( ) 図書館を利用しない。
2. 図書館の利用に関して、希望する項目があれば、番号に○をつけてください。
  - 1 英語の多読書
  - 2 資格の本の更新
  - 3 文庫本の新刊
  - 4 貸出可能なDVD（現在、ジブリコレクションが13作品、未来少年コナンが7作品ある。）
  - 5 旅行ガイド
  - 6 その他

アンケートの結果を次ページの表1、表2に示します。表1より、図書館の利用について、図書館を不便と感じる人の割合が10%にとどまることから利便性に関してあまり問題はないように思えます。一方、図書館を利用しない人の割合が24%を占めています。この割合は下級生において高いことから、新入生向けの図書館見学会などのキャンペーンが必要であると思われます。表2より、5つの項目のいずれも希望が多かったため、可能な限り対応することにしました。まず、英語の多読書については、すでに図書館へ配架することが決まっていました。資格の本については、現在図書館に保有している資格試験の図書の更新と新たな購入希望を調査することにしました。文庫本の新刊購入については、100冊程度を目安とし、学生図書委員会にその選定を依頼しました。貸出可能なDVDは、高価であるため、図書館の予算残額により購入を決めることにしました。旅行ガイドについては、広く国内外に視野を広げる機会を与える観点から、国内・国外のほとんどの地域をカバーすることとし、国内は「るるぶ」全県分とディズニー・リゾートの46冊、国外は「地球の歩き方」48冊を選定しました。

現在、英語の多読書はすでに配架されています。また、学生による文庫・新書の選定を、

学生図書委員の機械電気工学科3年磯本佑弥君、情報電子工学科4年田口奨也君、土木建築工学科4年古城ともかさんにお問い合わせいただき、133冊の本を選んでいただき、すべて購入することになりました。既にほとんどの本が入荷し、専用の棚に入れています。また、旅行ガイドも全て入荷済みです。

図書館の変革としては、従来通りの手法ですが、学生の皆さんの意見を図書館の運営に反映させる試みについて紹介させていただきました。これからも一步一步変わってゆく図書館に足を運んでいただきますよう、よろしくお願いいたします。

図書館長補 原田 徳彦

表1 図書館の利用について

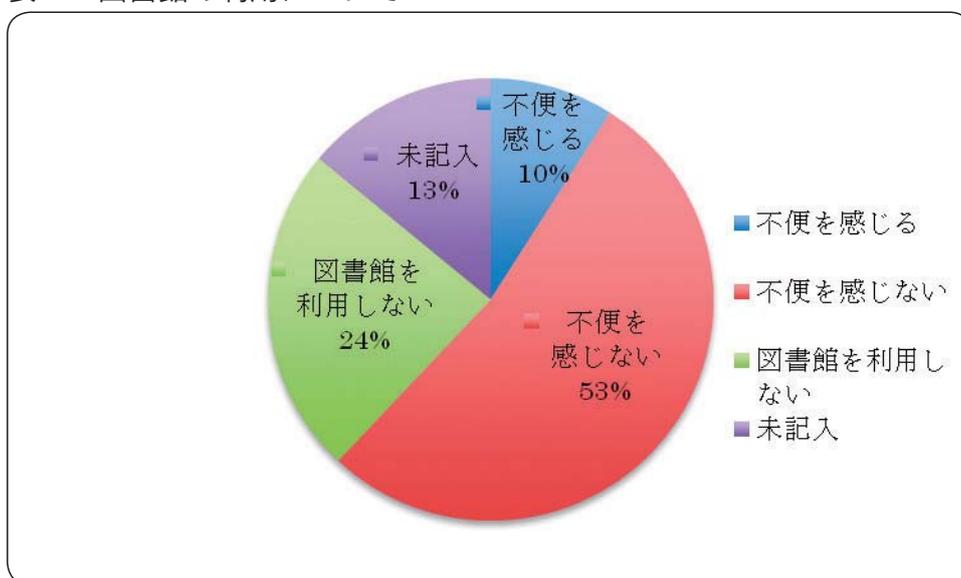
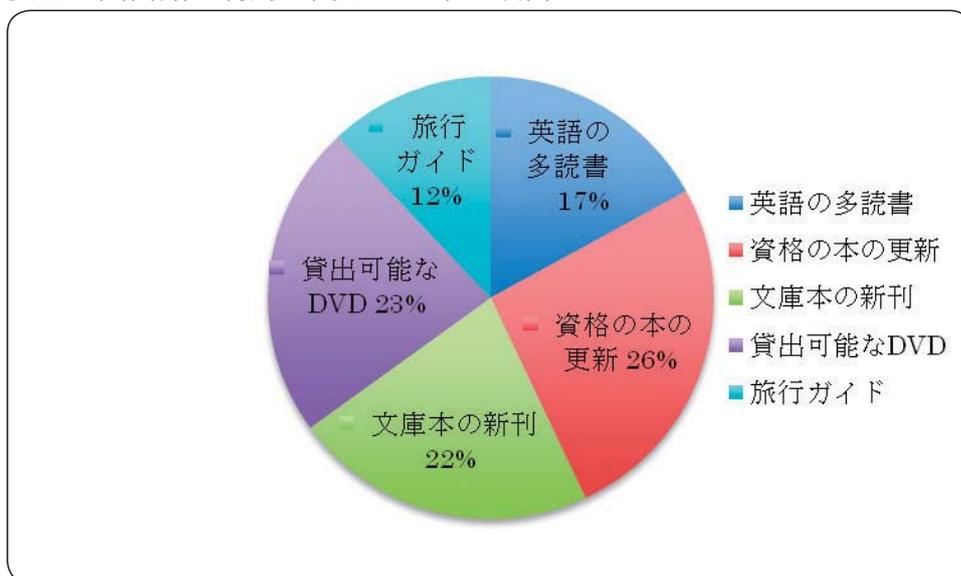


表2 図書館の利用に関する希望項目



## 図書館時間外開館 補助員の感想

### ■機械電気工学科5年 平田 翔大

私はこの補助員の仕事に就くまで、主に試験勉強のために図書館を利用していました。

しかし、この仕事を通して多くの本に触れ、本の魅力というものに改めて気づかされ、それら多くの情報が並ぶ図書館の良さを感じるようになりました。

普段、図書館を利用しない方も、書架に立ち寄って、興味を引く本を探してもらいたいと思います。

### ■情報電子工学科5年 西崎 優弥

図書館補助員として、図書館における図書の管理などを行ってきました。

私がこの業務を通じて学んだのは、「誰かが見えていなくてもきちんと業務を行う」ことでした。将来、社会に出て仕事ぶりを評価されることも多々あると思いますが、人の目があってもなくても誠実に仕事をこなす姿勢、というのは大事だと考えます。

1年間有り難うございました。

### ■情報電子工学科5年 森兼 彩子

この一年間補助員をやらせていただいて、図書館の素晴らしさを知りました。専門分野の本はもちろん、雑誌や流行りの小説まで幅広く揃っており、テスト期間だけでなく、もっと多くの人に活用していただけたらと思います。私がまだ幼いころ、司書になるという夢を持っていたので少しでも近い仕事をやらせていただけて光栄でした。

### ■土木建築工学科5年 田中 幹基

この1年間、図書館のより良い環境づくりを心掛けていくことで、多くのことを学びました。責任感の大切さや、小さなことへの気遣い・配慮など、これから社会に出ていく自分にとって確実にプラスとなる経験だったと感じます。また、お金を稼ぐことの大変さを通して、心から親への感謝が出来るようになりました。自分を高めてくれるバイト、そんな最高のバイトに出会えたことを誇りに思います。

### ■土木建築工学科5年 蒲生 諒

僕が図書館のアルバイトで印象に残っていることは、アルバイト採用の面接時、僕とパートナーの二人だけがスーツを着て臨んだことです。僕たちの学年で他にそんな人はいなかったし次に入る人たちの中にもいなかったのではないかと思います。そのおかげ？で合格して1年間図書館で働いた経験をこれから社会に出て活かしていきたいと思っています。

### ■土木建築工学科5年 長岡 里穂

みなさんは、図書館を利用したことはありますか？

私は補助員の仕事を始めるまで、図書館は課題がある時しか利用していませんでした。しかし、図書館には専門書以外にも話題の小説やジブリのDVDなど、たくさんの物があります。そんな図書館の良さを知れたことが、この仕事を通して得た一番の財産です。ぜひもっと図書館に本を借りに来てください！



## 編集後記

年末年始のお忙しい中、本号に執筆いただいた皆様、執筆依頼から校正まで協力して下さった皆様に改めてお礼を申し上げます。

5年前の編集後記で、「出会いの大切さ」を感じた年だったと書かせていただきました。その後、奇しくも「今年の漢字」に「絆」が選ばれた2011年度に再び編集後記を書かせていただく機会をいただきました。この漢字が選ばれた背景には、国内外の大規模な災害の経験から家族や仲間との「絆」やワールドカップで優勝した「なでしこジャパン」チームの「絆」があります。

本号の「ホームページTop Newsで綴る徳山高専この1年」をご覧いただきますと、高専大会等でのスポーツクラブの大活躍ばかりでなく、各種コンテストでの活躍など、今年は学生の多方面にわたる活躍が目立った年だったように思います。その他、学生会活動や高城寮での活動、留学生との思い出などにも、仲間との「絆」があったことが推察されます。また、先輩、友達や同窓生の書いたすばらしい内容の記事も、かけがえのない人との「絆」です。できるだけ多くの記事に目を通していただけると幸いです。

「高専だより」の目的の一つに年度の記録がありますが、学生、保護者、卒業生や地域の方々との「出会いと絆」を作ることも一つの目的だと考えております。これからも徳山高専から情報発信し、また楽しんで頂ける「高専だより」であることを祈念し、編集後記といたします。(M.M)



本校の「設計情報工学」プログラムは、日本技術者教育認定機構（JABEE）からの認定を受けています。



COLLEGE OF TECHNOLOGY  
ACCREDITED  
Mar. 2007

本校は、平成18年度に独立行政法人大学評価・学位授与機構の認証評価を受け、認証評価基準を満たしていると認定されました。

## 徳山工業高等専門学校 Tokuyama College of Technology

---

### 徳山高専だより No.65

発行 総合企画室  
所在地 〒745-8585 山口県周南市学園台  
TEL (0834) 29-6200 (代表)  
FAX (0834) 28-7605 (代表)  
印刷 大村印刷(株)  
発行日 2012年(平成24年)3月8日  
URL <http://www.tokuyama.ac.jp/>

---

# Tokuyama College of Technology



2012  
高専制度創設50周年  
『進化する高専』



(愛称：ココくん)

高専は、高専制度創設50周年にあたり、「進化する高専」を標榜し、科学技術創造立国を担う感性と創造性が豊かな実践的技術者の育成を通して、地域社会と国際社会の発展に貢献します。